

# 事 業 報 告

令和元年度 法人本部 事業報告

本年度は、中期基本計画（平成30～令和2年度）の2年目として法人本部、障害者支援、高齢者支援の各部門とも計画の着実な実現に向けて取り組みました。

本年度の特徴的事業として、武蔵野市吉祥寺北町5丁目に障害者地域生活支援ステーションわくらす武蔵野のスムーズな開設、事業定着にむけて採用や施設整備など総合的にバックアップしました。あわせて武蔵野市桜堤デイサービスの事業閉鎖に取り組みました。

また、法人全体の提供サービスの質の向上に資するため、本年度も人材育成に力を注ぎ、職員研修のさらなる充実や、昇任試験や人事評価により意欲ある職員の登用も行いました。

法人は、今後も安全・安心のサービスを提供することを心がけ、利用者様やご家族の満足度を向上させつつ、施設再編や不安定事業を安定運営の軌道に乗せるよう、職員一丸となって「地域社会に役立つ」の理念のままに、更なるサービスの向上に励んでまいります。

年度末においては新型コロナウイルス感染症対応に追われました。職員、利用者ともに罹患者を出さないように細心の注意でもって事業継続できるように対応し、この経験したことのない難局を乗り越えてまいります。

1 法人全事業でサービスを提供した人、件数 (延数/年間)

障害者関係	施設サービス	120,642名	(昨年 104,268名)
	支援・相談等	29,133件	(昨年 29,774件)
高齢者関係	施設サービス	35,347名	(昨年 37,165名)
	支援・相談等	9,720件	(昨年 9,852件)
合 計	施設サービス	155,989名	(昨年 141,433名)
	支援・相談等	38,853件	(昨年 39,626件)

2 理事等役員及び職員数及び参加ボランティア数 (令和2年3月31日現在)

理 事	7名	正規職員	174名 (昨年比22名増)
評 議 員	9名	嘱託職員	44名 (昨年比4名増)
監 事	2名	臨時職員	131名 (昨年比1名増)
第三者委員	3名	職員合計	349名 (昨年比27人増)
ボランティア数	延3,729名		

3 苦情解決 苦情受付件数 19件 (障害者施設10件 高齢者施設9件)

4 職員採用、異動等

- (1) 法人職員 採用40名 (一般支援36名 看護師3名 作業療法士1名)  
 退職16名 (一般支援13名 看護師2名 事務員1名) (内、定年退職者0名)
- (2) 職員人事異動 60名 (昇任14名 配置転換等46名)

5 資格取得者数 (延べ数)

社会福祉士	65名	介護福祉士	71名	介護支援専門員	38名
精神保健福祉士	11名	看護師・保健師	21名	保育士	23名
理学療法士	3名	作業療法士	3名	言語聴覚士	1名
心理士	10名	管理栄養士・栄養士	4名	初任者研修	26名
サービス管理責任者	51名	相談支援従事者	18名	強度行動障害養成	54名

※本年度 当法人資格取得支援制度による合格者3名

## 6 理事会の開催

- (1) 第1回理事会 令和元年5月28日(火) (出席者 6名/7名中)
- ① 議案第1号 平成30年度事業報告
  - ② 議案第2号 平成30年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
  - ③ 議案第3号 平成30年度決算附属明細書について
  - ④ 議案第4号 財産目録について
  - ⑤ 議案第5号 社会福祉充実計画の承認について
  - ⑥ 議案第6号 印章規程の一部を改正する規程について
  - ⑦ 議案第7号 報酬等規程の一部を改正する規程について
  - ⑧ 議案第8号 育児休業等規程の一部を改正する規程について
- (2) 第2回理事会 令和元年6月25日(火) (出席者 7名/7名中)
- ① 議案第9号 理事長互選
  - ② 議案第10号 苦情解決第三者委員の選任について
- (3) 第3回理事会 令和元年7月17日(水) (出席者 6名/7名中)
- ① 議案第11号 特別養護老人ホームゆとりえ大規模改修の実施について
  - ② 議案第12号 特別養護老人ホームゆとりえ大規模改修に伴う自己資金及び寄附金について
  - ③ 議案第13号 特別養護老人ホームゆとりえ大規模改修の設計事務所選定基準・選定理由について
- (4) 第4回理事会 令和元年12月13日(金) (出席者 6名/7名中)
- ① 議案第14号 特別養護老人ホームゆとりえ大規模改修の実施について
  - ② 議案第15号 特別養護老人ホームゆとりえ大規模改修に伴う自己資金及び寄附金について
  - ③ 議案第16号 特別養護老人ホームゆとりえ大規模改修の設計事務所選定基準・選定理由について
- (5) 第5回理事会 令和2年3月19日(木) (書面出席者 7名/7名中)
- ① 議案第17号 令和元年度収支補正予算(第1回)
  - ② 議案第18号 令和2年度事業計画
  - ③ 議案第19号 令和2年度収支予算
  - ④ 議案第20号 組織等規程の一部を改正する規程について
  - ⑤ 議案第21号 職員給与規程の一部を改正する規程について
  - ⑥ 議案第22号 職員就業規則の一部を改正する規則について
  - ⑦ 議案第23号 臨時職員就業規則の一部を改正する規則について
  - ⑧ 議案第24号 再雇用職員就業規則の一部を改正する規則について
  - ⑨ 議案第25号 施設長人事の同意について

## 7 評議員会の開催

- (1) 第1回評議員会 令和元年6月24日(月) (出席者 7名/9名中)
- ① 議案第1号 平成30年度資金収支計算書・事業活動計算書・貸借対照表について
  - ② 議案第2号 財産目録について
  - ③ 議案第3号 社会福祉充実計画の承認について
  - ④ 議案第4号 報酬等規程の一部を改正する規程について
  - ⑤ 議案第5号 理事の選任について
  - ⑥ 議案第6号 監事の選任について
  - ⑦ 議案第7号 苦情解決第三者委員についての意見聴取について

8 事業並びに会計監査 令和元年5月22日(水)(赤塚監事、安田監事)  
平成30年度事業及び会計監査を施設長並びに会計担当者からのヒアリング、書類審査

9 各種会議・委員会の開催

- |                    |   |
|--------------------|---|
| (1) 経営企画会議         | 法人経営、施設運営に関する報告、検討、決定 毎月末日開催  |
| (2) 施設長会議          | 経営企画会議を受けて報告、検討、決定 毎月月初開催   |
| (3) 障害者施設長会議       | 施設運営に関する課題検討、決定 毎月2回開催  |
| (4) 人事給与検討委員会      | 給与制度改正のための検討(平成30年度は経営企画会議にて実施)   |
| (5) 研修委員会          | 職員研修計画、企画、検討、実施運営 随時その都度開催  |
| (6) 中央衛生委員会        | 職員の労働環境や健康、衛生に関する検討、実施 年4回開催<br>※ 事業場衛生委員会は毎月開催                         |
| (7) 情報セキュリティー委員会   | 個人情報保護、漏洩防止の検討、実施(施設長会議で毎月開催)   |
| (8) リスクマネジメント委員会   | 事故事例検討、再発防止対策等の協議(施設長会議で毎月開催)   |
| (9) 広報委員会          | 広報紙やHPの企画、構成、発行、内容検討等 定期的に開催  |
| (10) 第10回実践発表会     | 令和元年11月15日(金) 参加者228名 エントリー数13事業所<br>発表3事業所(ふれあい、ゆとりえ支援、リエゾン) 大野田福祉の会   |
| (11) 快適職場アクション2019 | 誰でも相談室の実施(毎月)<br>ストレスチェックの実施(令和元年7月8日~19日)<br>新任施設長、係長面談                |
| (12) 職員確保プロジェクト    | 各大学、専門学校への就職斡旋、広報活動、各種就職セミナーに参加し、募集活動を行った結果、中途採用者21名、新卒者6名、<br>合計27名を採用 |

10 職員研修

毎月の研修委員会で検討、企画し、今年度は主に各階層別の研修を実施

- (1) 初級職員研修(対象:1~3年目職員)
- |                      |  |                   |
|----------------------|--|-------------------|
| ① 採用時新人職員研修(対象:新人職員) | 全8回                                      | 参加者38名            |
| 実施日                  | 平成31年4月1日(月)~2日(火)他7回                    |                   |
| 内容                   | 法人・各施設の概要と課題、見学、挨拶、支援・介護の基礎、法人規程等の講義     |                   |
| ② 半年後新人職員研修(対象:新人職員) | 全4回                                      | 参加者39名            |
| 実施日                  | 令和元年7月15日(月)/10月2日(水)/10月5日(土)/10月14日(月) |                   |
| 内容                   | 理事長講義、(講師:三好良子氏(人材育成コンサルタント))            |                   |
| ③ 初級職員研修(対象:2年目職員)   |  | 参加者7名             |
| 実施日                  | 令和元年10月5日(土)                             |                   |
| 内容                   | 理事長講義、(講師:三好良子氏(人材育成コンサルタント))            |                   |
| ④ 初級職員研修(対象:3年目職員)   |  |                   |
| 実施日                  | 第1回 令和元年11月14日(木)                        | 参加者13名            |
| 実施日                  | 第2回 令和2年1月11日(土)                         | 発表者13名 ※2年目職員8名参加 |
| 内容                   | 提案力・伝達力・育成力強化のため、個々の業務上の課題、取組、成果を各自発表    |                   |
- (2) 中堅層・リーダー層職員研修(対象:4~7年目職員、OJT担当者)
- |     |                               |        |
|-----|-------------------------------|--------|
| 実施日 | 令和元年9月7日(土)                   | 参加者20名 |
| 内容  | 理事長講義、(講師:尾崎眞三氏(C&P, etc 代表)) |        |
- (3) 新任係長評価者研修
- |     |                        |       |
|-----|------------------------|-------|
| 実施日 | 平成31年4月10日(水)          | 参加者1名 |
| 内容  | 「人事評価制度の説明と評価者の留意点を学ぶ」 |       |

## 11 災害対策等

- (1) 防災訓練等（障害者総合センター） 2回  
令和元年 8月10日（金） 避難訓練                      令和元年 11月21日（木） 避難訓練
- (2) 普通救命講習（正規職員は全員取得を義務付け）  
平成31年 4月4日（水） 参加者 26名  
令和2年 3月28日（土） 新型コロナの影響のため中止 受講者累計 26名

## 12 地域交流

- 第19回むさしのあったかまつり（市内障害者団体等 49団体参加） 来場者 約900名  
日 時 令和元年 10月19日（土）  
会 場 武蔵野障害者総合センター ※武蔵野市役所（パネル展）10/15（火）-16（水）

## 13 広報活動

- (1) ホームページ運営（法人・施設の最新情報を毎月更新）
- (2) 法人広報紙「ぶれっそ」を年4回発行（第44号から47号）
- (3) 法人内月報「武蔵野日記」を毎月発行
- (4) 法人専用電子メールアドレス・カレンダー機能による法人内の連絡・情報の共有化、活用の徹底

## 14 その他

- (1) 月次会計監査の実施 会計監査の毎月実施（外部会計事務所）消費税計算及び会計相談等
- (2) 外部監査の対応 武蔵野市指導監査（桜堤住宅）実施日：平成31年4月25日  
武蔵野市指導監査（ゆとりえ）実施日：令和元年8月29日  
武蔵野市指導監査（法人） 実施日：令和元年11月13日～14日  
武蔵野市財政援助団体等監査 実施日：令和元年9月30日他  
武蔵野年金事務所調査 実施日：令和元年10月24日
- (3) 見学者・来館者対応 令和元年度来館者 611名
- (4) 安全運転管理 安全運転講習会（総合センター）令和2年1月29日（水）  
講師：武蔵野警察署交通課長 参加者：55名  
法人保有車両 42台 自転車 45台



令和元年度 入社式 平成31年4月1日

令和元年度 指定障害福祉サービス事業  
「ワークセンター大地」(生活介護) 事業報告

1 事業運営について

今年度は、4月にこれまで大地に所属していたご利用者14名が山びこへ異動し、3月から4月にかけてわくらすへ入居された6名の方と合わせ、計20名の方が大地を離れることとなった。新規利用者がおらず、在籍は36名と、昨年度の約65%となった。昨年度までの定員を超過した状態から大きく変わったこの機会を活かすべく、運営を行った。また、12月にご利用者がお亡くなりになった(腹膜炎 49歳)。以後在籍35名。

規模が縮小し集団自体がコンパクトになった点を利用して、職員間のミーティングの充実を図った。情報共有をグループ単位のみならず、全員で毎日行うことができた。この流れの中で、職員が話し合いを重ねることにより新たな大地の理念が生み出され、運営の柱が定められた。また、利用者の情報を再度丁寧にまとめるための取組の一環として、新たな方法でのケース会議の実施、各利用者のデータの整理等を行った。実際の活動場面ではグループを超えた利用者の協力による受注作業の実施により、利用者の作業への参加度が高まった。夏や冬の活動の区切りの時期には全体での行事なども行うことができ、事業所としての一体性が高められた。

また、今年度はキャンプ(非常)用品の受注がコンスタントにあり、作業種の幅が広がった。生活介護協働のものづくり「つむぐと」の動きでは、毎週1回ショップの店番とその場所での創作活動を行うことができ、来店する方々との交流も持つことができた。作品展の開催も単独・合同で行った。

ご利用者、ご家族の高齢化問題や、一人暮らしの方への支援は引き続き関係者・機関と協力して対応した。利用者の体験もわくらすやリエゾンと協力して実施、3人の方が体験した(3月に予定されていた1名は新型コロナウイルス感染症予防のため中止)。また、お二人が新たにきたまちハウスに入居され(5月、6月各1名)、グループホームから大地へ通う日々がスタートした。今後は定員に余裕があることを意識しつつ、新たな利用者の獲得や受け入れにも力を注いでいきたい。

2 利用者の状況

(令和2年3月31日現在、単位：人)

(1)利用者数

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	39	0	13	26
女性	14	0	5	9
合計	53	0	4	35

(2) 年齢別利用者数

平均年齢 39.0歳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	計
男性	0	6	9	7	3	1	26
女性	0	3	1	3	1	1	9
合計	0	9	10	10	4	2	35

(3) 障害程度別利用者数

		愛の手帳	1度	2度	3度	4度	愛の手帳なし	計
身障手帳	1級						1	1
	2級							0
	3級							0
	4級以下				2			2
	身障手帳なし			17	11	4		32
合計			17	11	4	1	35	

(4) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

生活介護	計 53 人	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
		2	11	18	4	0

(5) 利用日数

週 5 日	週 4 日	週 3 日	週 2 日	週 1 日
33	1	1	0	0

(6) 活動時間

午前 9 時から受け入れ、午後 4 時終了

(7) 通所方法

自力通所 19 人、施設送迎(送迎車) 13 人、家族付添い 3 人  
 なお、東京都補助金より交通費の支給を 8 人が受けている。

(8) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 7,828 人(通所サービス日数 240 日) 1 日平均 32.6 人 (81%)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
696	705	626	697	641	611
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
706	654	678	595	571	648

(単位: 人)

※ふれあいのご利用者 1 名、ご本人のご希望で月曜日の午前のみ、大地で作業を行なった。(延 15 回)

3 活動全般

(1)活動体制

利用者の状況やニーズに応じて 3 つのグループ体制のもと支援を行った。

グループ	作業分担(主担当)	場所
サンカ	軽作業、受注作業(キャンプ道具や救急セットの封入)、和紙づくり、自主製品等の作業(押し花コースター、葉づくり、ビーズ)、チラシ配布、ポスティング、他	3 階
ナナカ	受注活動を中心とした室内作業、軽作業、紙作業、公園清掃、ポスティング、チラシ折り、刺繍、他	2 階
ハッカ	受注活動を中心とした室内作業、軽作業、紙作業、公園清掃、ポスティング、チラシ折り、刺繍、他	2 階

(2)活動内容

プログラム	内容	ねらい
作業プログラム	①軽作業(榮太樓、キャンプ道具や救急セットの封入、ボタン組み立て、封入封緘、チラシ折り) ②公園清掃 ③ポスティング(リビングむさしの、ぱど、テンミリオンハウス月見路、他) ④チラシ配り ⑤紙作業(紙ちぎり、ラミネートはがし、リサイクル) ⑥地域での作業活動(アパート清掃等) ⑦自主製品の作成(押し花コースター、葉、ビーズ、刺繍)	自立への意欲を高める 人間関係づくり 社会ルールの習得 基本生活習慣の形成 社会への参加、成長意欲を高める

生活 プログラム	スポーツ(サッカー、ウォーキング、プール、エクササイズ、市開催のスポーツ広場の参加)、カラオケ、図書館、外出(昼食、喫茶、1日)、宿泊旅行(全5回) 暑気払い食事会、忘年会、年度末会	本人の社会参加をすすめる活動。 社会とのつながり、人とのつながりをつくる
-------------	--	---

(3)工賃規定にもとづいて以下の工賃を支給した。

2019年度工賃支給総額 1,640,860円

(4)行事等

宿泊旅行については大地・山びこ合同で5回に分けて実施した(希望者)。

宿泊旅行	① 7/11(木)～7/12(金) ② 7/18(木)～7/19(金) ③ 9/5(木)～9/6(金) ④ 9/19(木)～9/20(金) ⑤ 11/21(木)～11/22(金)	①②③④⑤ともに行先は茨城県 大洗方面
新年と成人を祝う会	1/10(金)	地下会議室にて実施

#### 4 その他の活動

(1)保健・給食

健康管理・健康診断(2回)、歯科検診、耳鼻科検診

(2)防災(避難)訓練

年2回の総合訓練の実施、年2回の災害伝言ダイヤル活用訓練を実施した。

(3)家族関連

家族連絡会の開催(年3回)、1月～3月にかけて個別面談

(4)実習の受け入れ

- ・特別支援学校生徒の実習の受け入れ 4名 (延)12人
- ・夏休み通所体験 3人(高等部2年生5名) (延)6人
- ・養成機関等学生の実習の受け入れ 受け入れは7名 (延)49人  
(内訳) 社会福祉援助実習/介護体験学生

(5)ボランティア受け入れ

- ・延べ 132人(作業活動、外出など)

(6)地域関連機関や団体との連携

- ・武蔵野市地域自立支援協議会の「当事者」部会に参加

(7)職員研修

①施設内研修 「ストレスケア研修」(全2回)

「ヒコラボ」

「感染症研修」

「ふれあい内部研修」参加(4名)

②法人研修

- ・全体研修、施設長・係長研修、主任研修、中堅層・リーダー層研修、3年目研修、新人研修、虐待防止研修、



実践発表会

・普通救急救命講習会、安全運転講習会

③武蔵野市関係(延3人)

・武蔵野市精神保健福祉研修

④外部研修(延15人)

東京都通所活動施設職員研修会研修

東京都通所活動施設職員研修会・東社協知的発達障害部会合同研修会

東社協知的発達部会総会時研修 / 東社協関係 / 全国自閉症協会 / ルーテル学院大学

障害及び障害者理解研修事業 / その他

⑤その他

「大地の理念作成ワーク」1回

(9)苦情受け付け状況

今年度の苦情は1件であった。解決済・報告済。

令和元年度 指定障害福祉サービス事業  
「デイセンター山びこ」(生活介護)事業報告

1 事業運営について

利用者は4月に特別支援学校卒の方1名と、他法人の事業所を利用されていた方が1名加わった。また、11月に他区より転入された方が1名加わった。(新規利用計3名) 退所は9月にわくらすへ異動した方が1名、体験利用を経て11月、3月に異動した方がそれぞれ1名あった。また、3月末で他市の事業を利用されるために1名が退所された。(退所者計4名)

事業面では、生活介護3事業所の機能強化の取り組みを継続した。昨年度末に活動室のレイアウト変更を行い、活動グループや活動場所を大きく変えた。各グループがメインとなる活動を中心に据え、ご利用者の安定した日中活動を模索した1年であった。ものづくり(各種創作活動)の取組は、これまでの「hicobae」というブランドを「つむぐと」に改め、外部デザイナーの力などもお借りしてコンセプトを明確にし、ショップ・商品タグのリニューアル等を行った。これらの動きにすばるやわくらすも加わり、法人生活介護事業所が協働して取り組んだ。

2019年度はご本人の自立や家族の事情などを含め、ご利用者の生活拠点について変化の多い年となった。きたまちハウスでのチャレンジ自立体験、わくらす武蔵野での体験利用を計3名の方が行った。冒頭にも記したように、障害者支援施設に入られた方1名、当法人のグループホームに入居された方が1名、他市のグループホームに入居された方が1名であった。ご本人、ご家族の高齢化に関する課題は今後も増えることが予想され、この解決に向けて武蔵野市や関係機関とも連携しながら継続して取り組んでいくことが求められている。

2 利用者の状況と活動全般

(令和2年3月31日現在、単位：人)

(1) 利用者数 (定員40人)

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	18	14	3	29
女性	12	3	1	14
合計	30	17	4	43

(2) 年齢別利用者数 (平均年齢33.5歳)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	計
男性	1	15	3	9	1	29
女性		3	6	5		14
合計	1	18	9	14	1	43

(3) 障害程度別利用者数

		愛の手帳(療育手帳)				
		1度	2度	3度	4度	(合計)
身障手帳	1級					
	2級		2			2
	3級		1			1
	4級以下					
	なし		33	4	3	40
	合計		36	4	3	43

※精神障害者保健福祉手帳の所持者なし。

(4) 障害者自立支援法による障害程度区分の数（平均 4.9）

区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6
		7	17	12	7

(5) 活動時間

午前 9 時 00 分から受入、午後 4 時 00 分終了（送迎利用者は午後 3 時 30 分送迎車出発）  
なお、これに限らず家族からの要請があれば時間前受入、時間延長など柔軟に対応した。

(6) 通所方法

施設送迎 31 人（うちグループホーム 7 名）、家族送迎 8 名、単独通所 7 名。2020.3 現在  
施設送迎以外の方も必要に応じて送迎を行った。

(7) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 8546 名（通所サービス日数 240 日） 1 日平均 35.6 人

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
781	787	718	750	696	658
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
756	691	708	668	629	704

(8) 活動について

《基本活動》 5 グループにより、メイン活動（織物、缶回収、地域活動、創作活動、健康など）とフ  
リーデー（個々のニーズに合わせた活動）を中心に活動を提供した。

《販売活動》

（内部企画）

- ・ものづくり工房 hicobae をつむぐととしてリニューアルし、販売の拠点としての機能を高めた他、  
創作の場、企画展示の場（織物・押し花展、つむぐと展）として活用しながら、拡販に努めた。
- ・輪っかになろう展、アウトレット市などを企画し、店外販売につなげた。

（外部企画）

外部イベントにも積極的に出店し、ワークショップ等を通じて地域や関係機関との交流にもつなげた。  
（武蔵野タワーマルシェ、エコマルシェ、まちのマルシェ、軒下フェスタ、東京大集会、フェアトレ  
ードフォーラム、けやきコミセンバザー、東学園学園祭、まんパク等）

《宿泊旅行》 5 回に分けて実施した。（茨城県大洗方面：7/11-12、7/18-19、9/5-6、9/19-20、11/21-22）

《その他イベント》

むさしのあったかまつり、ヘラルボニーワークショップへ参加した他、入所式、新年と成人を祝う会、  
春の日（終業の集い）を実施した。

3 その他の活動

(1) 保健・給食

- ・健康管理として、健康診断（2 回）、歯科検診（1 回）、耳鼻科検診（1 回）を実施した。
- ・給食について、利用者の状況に合わせた給食を提供した（刻み食、マッシュ食、ペースト食など）。
- ・職場内研修として、感染症予防研修を実施した。

(2) 防災（避難）訓練 ・年2回実施した。

- ・大規模災害時を想定し、家族との緊急連絡をとりあう訓練として、災害伝言ダイヤルの体験利用を実施した。

(3) 家族関連

- ・家族会を年に3回開催した（4/25、7/25、10/31）。
- ・1月から3月にかけて年度末の個別面談を実施後、個別支援計画を作成、送付した。

(4) 実習の受け入れ

- ・特別支援学校生徒の実習：6名
- ・養成機関等学生の実習：社会福祉士養成校から1名（8/19-9/19）、慈恵医大から1名（のべ5日間）
- ・東社協知的発達部会主催の施設体験研修へ協力し、他法人の支援者2名を受け入れた。
- ・武蔵野大学の学生、自閉症協会職員、東社協福祉人材センターの見学

(5) ボランティア受け入れ

- ・今年度も積極的にボランティアの受け入れをし、活動協力・利用者支援に関わっていただいた。

(6) 地域関連機関や団体との連携

- ・企画への参加：二葉ファッションアカデミー、ヘラルボニーワークショップ、
- ・出店：武蔵野マルシェ実行委員会（タワーマルシェ）、クリーンセンター（エコマルシェ）、グリーンパーク商店街（軒下フェスタ）、けやきコミセン（バザー）、東学園（紫峰祭）等
- ・あったかまつりに施設として利用者・職員が参加し、販売活動も行った。

(7) 広報

山びこ広報紙「やーっ報」を年3回発行した。

(8) 工賃の支給について

- ・工賃の支給についてはこれまでと同様、事業所の支給規定により、全ての利用者に毎月支給した。1年間の支払い総額は1,090,930円であった。

(9) 職員研修

①山びこ内部研修・3事業所合同研修

支援再考研修、クレーム接遇研修、人権擁護研修、ストレスマネジメント研修、ヒコラボ、ケース検討会、音楽療法等

②法人研修

全体説明会／中堅層リーダー研修／3年目職員研修／実践発表会／安全運転講習会等

③外部研修

情報セキュリティー研修、自閉症研修、施設長係長研修、強行基礎研修、都通研研修、安全運転講習 LGBT研修／都外施設見学／強度行動障害支援者養成研修／東社協合同学習会／東京都障害者通所活動施設職員研修／全国障害者地域生活支援研究会等

(10)イブニングケア 当法人のご利用者で、強度行動障害の判定が出ていて、かつ、短期入所(市単事業含む)・行動援護・移動支援のサービスが概ね半年程度使えていない方を対象に、月1回通所終了後の時間帯に支援を行った。山びこのご利用者2名が対象で利用を希望されたため実施した。10月～3月までの期間 計10回実施した。

4 苦情受付状況 今年度の苦情は2件であった。報告済・解決済。

令和元年度 指定障害福祉サービス事業  
「デイセンターふれあい」(生活介護) 事業報告

1 事業全般について

今年度は29名の在籍から始まったが、わくらす武蔵野がスタートして、6月より5名の利用者が退所してわくらす武蔵野に異動した。また、9月には女性利用者が急逝された。9月より中途障害の方が1名入所され後半以降は24名在籍され現在に至っている。ふれあいの重要な課題について取り組むプロジェクトとして、意思決定支援プロジェクトチームと創作活動を中心とするDCFチームとに分かれて毎月ミーティングを持ち取り組んだ。意思決定支援チームでは今までの数年の取り組みをまとめて11月の実践発表会にて報告し、全員で内容を確認して次のステップに向けて討議した。また、創作活動では、法人の生活介護施設共通の事業体として「つむぐと」を立ち上げ積極的に参加し、イベント等の開催を通して施設間の連携が深まった。利用者・職員双方にとって、活動の新たな広がりや交流・協力による刺激を受けるようになった。

2月以降、新型コロナウイルスの流行に対応して情報収集を行い、看護師が中心となって施設内の衛生・感染症対策を行った。十分な衛生管理、外出活動を控える、特に医ケアの利用者家族とは情報共有を緊密に行い変化する状況に応じて密に相談しながら必要な対応を行った。利用者の記録に関してはケアノートというソフトを導入し情報共有の効率化を図ることができた。

2 利用者の状況と活動全般

(令和2年3月31日現在 単位:人)

(1) 利用者数

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	16	1	4	13名
女性	13	0	2	11名
合計	29	1	6	24名

(2) 年齢別利用者数 平均年齢 35.3才

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男性	0	6	2	4	0	1	0	13名
女性	0	3	1	3	3	1	0	11名
合計		9	3	7	3	2	0	24名

(3) 障害程度別利用者数

		愛の手帳	1度	2度	3度	4度	愛の手帳なし	計
身障手帳	1級	4	4	0	0	8	16	
	2級	0	3	0	1	0	4	
	3級	0	0	1	0	1	2	
	4級以下	0	1	1	0	0	2	
	身障手帳なし	0	0	0	0	0	0	
計			4	8	2	1	9	24

\*他に精神障害者保健福祉手帳の所持者あり

(4) 障害者自立支援法による障害程度区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6
0	0	2	2	5	15

(5) 利用日数

週5日	週4日	週3日	週2日	週1日
17	0	4	1	2

(6) 活動時間

午前9時から受け入れ、午後4時終了(送迎ある方は3時30分出発)

(7) 通所方法

施設送迎 23人、グループホーム職員送迎 1人

(8) 年間利用状況

延べ人数 3,958人 (通所サービス日数 238日) 1日平均 16.6人

4月	5月	6月	7月	8月	9月
446	381	369	346	331	288
10月	11月	12月	1月	2月	3月
294	306	324	289	270	314

(単位:人)

(9) 活動について

- ・通常活動は前年度を継続した。2つのグループは活動においては混在する形でおこなった。
- ・外出、外食活動は「1日外出」(2回)と「外食」(2回)とした。
- ・宿泊旅行については4回に分けて実施した。

①	6月13日～14日	箱根方面
②	6月27日～28日	箱根方面
③	9月12日～13日	秩父方面
④	9月26日～27日	秩父方面

・作品展、販売等

① マジエルカ	年間通して吉祥寺マジエルカにて販売
② 輪っかになろう展 (永谷ギャラリー)	8月2日～5日 生活介護合同、展示販売
③ あったかまつり	10月19日 生活介護合同 作品販売
④ 南町文化祭	10月12日～14日 生活介護合同 作品販売、展示
⑤ 武蔵境フェアトレードフェスタ	10月26日 生活介護合同 作品販売
⑥ コミュニティセンター	11月1日～6日 文化祭に参加、作品展示
⑦ わくわくフェスタ	11月18日 生活介護合同 ワークショップ
⑧ タワーズマルシェむさしの	9月21日 11月24日 生活介護合同 作品販売
⑨ session!tokyo50!	11月30日 生活介護合同 作品販売
⑩ つむぐと展	1月14日～16日 生活介護合同 作品販売 ワークショップ

・売り上げ配分(工賃)

作品展の売り上げから材料費、運営費を控除した上で、作品制作に関わった利用者に配分金(工賃)として9月と3月の2回に分けて配分した。 合計 149,222円

・山びこ、大地と合同での展示販売の実施。

・その他

9月～10月地域のマルシェ、学祭、文化祭などで展示販売

10月20日(土) あったかまつりに作品販売で参加

季節行事として、夏フェス、クリスマス会、新年と成人を祝う会をおこなった。

地域交流として、地域の店舗、関係機関などに出かけ連携、交流を進めた。

### 3 その他の活動

#### (1) 保健・給食

- ① 機能訓練・理学療法士による機能訓練の実施(週2回)
- ② 健康管理・健康診断(2回)、歯科検診
- ③ 摂食・ペースト状特別食等、摂食しやすいような配慮

#### (2) 防災(避難)訓練

年2回実施

#### (3) 家族関連

家族連絡会の開催(4回)

活動の予定説明、施設や法人の状況報告、質疑など。

#### (4) 実習の受け入れ

- ① 特別支援学校生徒の実習の受け入れ  
都立小平特別支援学校から 1年生1人
- ② 養成機関等学生の実習の受け入れ  
社会福祉士資格取得実習 1人 ・教員免許取得介護等体験 7人  
その他体験・見学の受け入れを行った。

#### (5) ボランティア受け入れ

ボランティア担当を置き日常の活動や行事で受け入れに努めた。年間延べ 156人  
日常の活動手伝い、外出付き添い、行事の手伝い他。

#### (6) 地域関連機関や団体との連携

- ・武蔵野市地域自立支援協議会の「くらす」部会に参加した。
- ・アールブリュット実行委員に参加
- ・高次脳機能障害関係連絡会の運営委員に継続して加わった。

#### (7) 職員研修、ほか

- ① プロジェクトチーム  
DCF(創作+地域活動)、意思決定支援のグループに分かれて実施
- ② ふれあい内部研修  
・意思決定支援、身体介護の実際 ・摂食嚥下のメカニズムとケアの実際 ・視覚障害の理解  
・感染症対策
- ③ 生活介護合同、法人研修  
・法人、障害者支援部門が主催する全体研修、実践発表会、自閉症の理解、創作活動(コンセプト、接客、ラッピング、販売戦略など)
- ④ 外部研修  
・医療的ケアの歩みと地域へのアプローチ・重度者の医療、療育・個別支援計画の再考・盲学校見学  
・強度行動障害・重症者の痰の吸引等医療的ケア支援者養成研修(特定の者)

#### (8) 事故報告

10件

テーブルに足をぶつける、ゆっくりと崩れ落ちて転倒、利用者間トラブル、服薬忘れ、服薬間違い、自傷つまづきにより膝を打つ、送迎中の自転車との接触事故、保温材による低温やけど  
利用者が転倒し打撲(職員との接触による)、等

#### (9) 苦情受け付け 状況

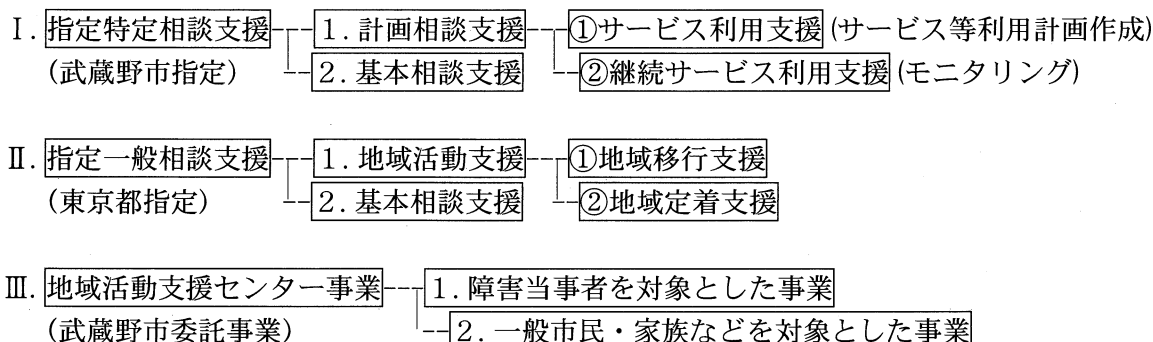
1件 服薬についての間違い



令和元年度 地域活動支援センター事業・指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業  
「地域生活支援センターびーと」 事業報告

1 事業運営 ～事業の枠組み～

地域生活支援センターびーとは、武蔵野市からの委託事業と、自主事業に当たる相談支援事業の、大きく2つの事業を柱として、運営している。主に18歳～64歳の方を対象としているが、必要に応じて18歳未満の方やその家族の支援も、関係機関との連携のもと行っている。



2 相談支援の状況 (平成31年4月～令和2年3月の実績)

(1) 基本相談と計画相談 (指定特定相談支援事業・指定一般相談支援事業) の概要

総相談受付件数は昨年度対比約1.3%増。昨年度の対前年比の増加率は約4%、一昨年度は約3%、その前は5%であった。ここ数年は、概ね同様の増加割合であることから、実人数や新規計画相談作成対象者数も含めて、相談件数的には落ち着いた状況が続いている。

(2) 相談受付総数と内訳

総相談受付件数：16,237件 (年度合計) 昨年度は16,023件

実相談件数人数：656人 (年度合計) 昨年度は598人

新規基本相談件数：69人 (年度合計) 内、継続して支援している人は14人/昨年度は49人

新規計画相談件数：22人 (年度合計) 昨年度は24人

相談区分	身体	重心	知的	精神	発達	高次脳	重複	他	合計 (相談区分別)
基本相談	369	10	2,502	322	58	4	481	222	3,968
計画相談	367	61	2,727	48	29	0	276	13	3,521
ピアカウンセリング	59	0	97	4	0	0	6	0	166
専門機関	821	130	5,870	198	38	2	905	453	8,417
時間外対応	1	0	25	8	0	0	0	131	165
合計	1,617	201	11,221	580	125	6	1,668	819	16,237

※総件数が昨年度比の約1.3%増 (昨年度は約4%の増、一昨年は約3%の増)

(2) 相談受付先

割合としては、連絡調整を行う「関係機関との連携」が一番高い。関係機関との連携の割合は、件数のみでなく、内容の濃さも深まっている印象を受けている。解決には、びーと単体での支援の継続とともに、他機関との協力体制も大きなポイントである。

NO	区分	件数	割合 (%)	NO	区分	件数	割合 (%)
----	----	----	--------	----	----	----	--------

1	本人からの相談	4,887	30.1	6	親戚からの相談	36	0.2
2	父母からの相談	2,453	15.1	7	関係機関との連携	8,418	51.8
3	配偶者からの相談	18	0.1	8	知人・友人からの相談	17	0.1
4	子からの相談	0	0	9	一般市民の相談	144	0.89
5	兄弟からの相談	262	1.7	10	その他(匿名者他)	2	0.01

※昨年度集計値と比較して、本人からの相談が約 2.1%、関係機関との連携が約 1.8%増加。

### 3 地域活動支援センター事業

(1) 参加者数など(平成31年4月～令和2年3月の実績) 合計 8,601人 単位:人

区分	わくきん	道場上映会	ダンス	PC	ぴあクラブ	体験塾	料理	手芸	男子会	女子会
人数	231	327	452	663	383	82	390	435	46	71
区分	サマーセミナー	あったか	就労グループ	公開セミナー	見学	サポーター	地域	市民向け	食育	その他
人数	54	252	182	237	44	79	1,000	3,349	172	152

※合計値が、昨年度と比較して約 21%の増。

(2) 各事業の概要 ☆新型コロナウイルス対策により、2月下旬より地域活動支援センター事業を休止

- ① わくきん … 「わくわく金曜広場」と利用者が命名。金曜日の夜に集まる当事者の集い
- ② 北町道場・上映会 … 仲間同士の交流をはかり、人とのつきあいを深める体験・交流の場
- ③ 北町ダンス倶楽部 … 障害者スポーツ指導員を講師に迎え、ダンスに楽しく取り組む機会
- ④ パソコン(PC)教室 … 希望や目的に応じたパソコンの学習教室。個別とグループ両方で実施
- ⑤ ぴあクラブ … 土曜日開催。集団で体験や交流をはかったり社会との接点を持つ活動
- ⑥ 暮らし体験塾 … 生活の中からテーマを絞り体験を通して生活力をつける自立体験活動
- ⑦ みんなのキッチン … 調理体験と会食を通して参加者同士の交流を促進
- ⑧ 手芸教室 … ボランティア講師の指導で、思い思いの作品作りに挑戦する趣味活動
- ⑨ 男子会 … 男性登録者に限定し、共通した趣味の話題・共有で交流。自立話題も投げかけ
- ⑩ 女子会 … 女性登録者に限定し、女性ならではのテーマ設定により様々な自立課題を体験
- ⑪ サマーセミナー … 当事者向け学習会。今年度テーマは“人付き合いのルールを学ぼう!”
- ⑫ あったかまつり … 利用者有志の会が駄菓子屋を出店。企画から当日の運営までを担った
- ⑬ 集まろう会 … 一般企業等就労者対象の当事者活動。参加者の話合で「集まろう会」と命名
- ⑭ 公開セミナー … 障害者ご本人やご家族、一般市民などを対象とした公開講座の開催
- ⑮ 施設見学者への対応 … 相談から具体的な支援につなげる一環として通所施設等の見学を支援
- ⑯ サポータークラブ … 学生や主婦等が「びーとサポータークラブ」として活動に参加
- ⑰ 地域との連携 … 福祉の会やボランティア団体など地域社会との連携活動
- ⑱ 市民向け事業 … 障害者総合センター来館者対応やフリースペースの設置など
- ⑲ 北町食育くらぶ … 季節の行事を題材に、食をテーマにした学びの機会を提供する活動
- ⑳ その他 … 地域活動支援事業全般に対する問い合わせや登録・契約など

※「⑨ 男子会」並びに、「⑲ 北町食育くらぶ」は、今年度からの新規事業

(3) 月別の平均来館者数

地域活動支援センター事業関係の1日当たりの月別平均件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
人数①	30.5	33.6	29.0	29.1	29.2	26.8	27.5	27.3	26.4	26.6	31.6	21.6
人数②	17.4	19.0	14.8	16.9	17.1	15.0	17.5	14.4	11.9	16.5	18.5	16.2

※上段は「問合せ等受付件数+来館者数」の対応件数、下段は「来館者数」

### 4 自立支援協議会

自立支援協議会(親会議)委員として、法人から相談支援事業所の代表者区分で施設長が出席。相談支援部会の担当委員として部会活動にも参加。合わせて、くらす部会・はたらく部会・権利擁護部会にそれぞれびーと職員を派遣。

5 市民・関係機関支援者等向け及び、当事者に向けた公開セミナー(学習会企画)

(1) 市民・関係機関支援者等向け公開セミナー

開催日：令和2年3月①16日(月)主に関係者向け・②主に家族向け17日(火)

テーマ：知的障害のある方の性と生の支援 ～地域生活を支える視点から考える～

講師：伊藤修毅氏(日本福祉大学子ども発達学部子ども発達学科准教授)

会場：武蔵野市役所西棟811会議室

※8月より準備を進めていたが、新型コロナウイルス対策により次年度に延期となった。

(2) 当事者向けサマーセミナー(学習会)

開催日：令和元年8月3日(土)

テーマ：人付き合いのルールを学ぼう! ～できる大人に大変身!～

講師：山本良典氏(東京都心身障害者福祉センター地域支援課地域支援担当)

会場：武蔵野障害者総合センター イベントホール

受講者人数：22人

6 苦情などについて

(1) 苦情受付件数：0件…びーとに関する直接の苦情はなかった。

相談支援という役割上、法人内他施設の苦情を2件受け付けている。

具体的な対応を当該施設の施設長に連絡した。

(2) アクシデント報告：1件…他事業所の同姓職員あてにメールを誤送信。

7 職員の専門性や資質向上のための取り組みについて(主なものを分野ごとに抜粋して記載)

区分	開催研修テーマ	概要やテーマ等	主催
市	精神保健福祉研修	ギャンブル依存症研修	武蔵野市障害者福祉課
法人	人権擁護・虐待防止研修	障害児者支援員の人権擁護研修	人権擁護虐待防止委員会
	法人相談支援従事者連絡会	愛着障害の理解を深める	法人相談支援技能研究会
相談支援	相談支援員現任者研修	相談支援専門員資格研修	東京都保健福祉局
	都相談支援従事者研修	相談支援演習指導者養成研修	東京都保健福祉局
専門分野	強度行動障害支援者養成研修	強度行動障害基礎・実践研修	東京都保健福祉財団
	不当行為等対策講習会	不当行為等への対応研修	武蔵野市総務課

8 その他(その他の事業 ～一部重複掲載有～)

(1) 地域との連携・協力 … 地域福祉の会、こいこいの集い、あったかまつり実行委員会、等

(2) 行政との協働・参画 … 武蔵野市地域自立支援協議会、武蔵野市高次脳機能障害者関係機関連絡会、武蔵野市高齢者及び障害者虐待防止連絡会議・障害者差別解消支援地域協議会、武蔵野市就労支援ネットワーク会議、等

(3) その他連絡会など … 武蔵野市相談支援専門員連絡会、東京都相談支援従事者ネットワーク、都内知的障害者相談支援事業所連絡会「東京ネットワーク」、等

(4) 事業所内部での取り組み … 運営会議、支援会議、職員会議、等

令和元年度 指定障害福祉サービス事業  
「ワークセンターけやき」(就労継続支援 A 型・B 型) 事業報告

1. 事業運営について

平成 29 年度に策定した新たな事業理念「仕事を通してつながりをひろげ、自分らしく成長していく」に基づき、企業就労は成し得ないが雇用契約のもとで誇りを持って仕事をしたい方から、特別支援学校を卒業したばかりで働く習慣を身につける必要がある方まで、幅広い就労ニーズに応えるべく、より上質な就労機会の確保と個別支援の充実を軸に事業運営を行った。また、ジョブアシストいんくるの就労トレーニングの場として引き続き、作業センターを中心に事業連携・協力を行った。

(1) 就労継続支援 A 型(雇用) 定員 10 名

必要とされる能力を有しながらも企業などで働く機会が得られない方に対して、印刷部門と食堂部門(市役所 8 階さくらごはん)で雇用契約を結び、合理的配慮ある労働環境を提供した。

(2) 就労継続支援 B 型 定員 30 名

封入等作業や天然酵母パン製造販売、喫茶パールブーケ運営を行い、福祉的な支援を受けながら働く機会を提供した。質の高い多様な働き方ができることから、問い合わせや見学は多い。

2. 利用者支援について

(1) 利用の状況

今年度は 3 名(特支 1、他 2)が新たに利用を開始、5 名が利用を終了(就職 1、いんくる移籍 1、他 3)し、2 名減となった。ジョブアシストいんくるの就労トレーニングや体験実習に入る方も含めると、けやき利用者に加えて 5~10 名の新規利用者を常時受け入れている。

① 利用者数 令和 2 年 3 月 31 日現在 (単位:人)

事業別(定員)	前年度末	入所	退所	法人内移籍	今年度末
就労継続 A 型(10)	5	0	1	0	4
就労継続 B 型(30)	31	3	3	1	30
計	36	3	4	1	34

② 年齢別利用者数(平均年齢 37.3 歳) 令和 2 年 3 月 31 日現在 (単位:人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	65 歳以上	合計
男性	1	8	3	6	5	0	0	23
女性	0	1	6	2	2	0	0	11
合計	1	9	9	8	7	0	0	34

③ 障害・度数別利用者数 令和 2 年 3 月 31 日現在 (単位:人)

		愛の手帳					
		1 度	2 度	3 度	4 度	なし	合計
身障手帳	1 級					3	3
	2 級					1	1
	3 級			1			1
	4 級以下				1	1	2
	なし			9	11	7(精神)	27
	合計			10	12	12	34

(2) 活動時間

①就労継続支援 A 型 9:00~17:00、週 5 日の勤務時間の内で、精神障害のある方の短時間雇用も含み、本人の状況に合わせて雇用環境を提供した。

②就労継続支援 B 型 8:00~16:00 の時間内で、それぞれ個別事情に応じて柔軟に設定した。

(3) 利用契約と個別支援計画

利用契約を結び、個別面談を行い、個別支援計画策定とモニタリングを半期毎に行った。

(4) 余暇活動支援

年末営業最終日に利用者交流会（希望者のみ）を実施した。ご利用者にも企画段階、当日の運営に参加できる機会を設けた。

(5) 地域交流、貢献事業

①ベーカリーでは青空市や NTT 研究所等に出張販売に行き、積極的に交流を深めた。

②地域福祉の会や地域防災の会に職員を派遣した。

(6) 保健衛生

①定期健康診断、内科検診等実施した。

②日常の作業時や行事の際の緊急時に備え、定期的に健康服薬調査を実施した。

### 3. 就労支援事業について

(1) 売上について

① 印刷・サイン (就労継続 A 型) 47,256,982 円

② 封入等軽作業 (就労継続 B 型) 17,659,894 円 (うち図書館委託業務 3,657,900 円)

③ 喫茶ベーカリー (就労継続 B 型) 26,164,320 円

④ 食堂 (就労継続 A 型) 19,848,884 円 合計 110,930,080 円

・ 全部門について収支改善計画を立て実行した。喫茶ベーカリー部門が約 103%と売上を伸ばしたが、他部門は昨年度比 89%~98%となった。全体では 97%であった。

・ 食品事業（喫茶ベーカリー、さくらごはん）については、新型コロナウイルスの影響で 3 月に売上が大きく減少し、総額は 2 月までの累計から 1~3%減少した。

(2) 印刷・サイン部門（西久保オフィス）

ポスター、名刺・封筒、チラシ・パンフレット、冊子・広報物等の印刷、名簿データ管理、T シャツプリントなどの作業を行った。優先調達法により、国の機関や中央官庁からの受注がいくつもあった。また例年同様、多摩地区を中心に官公庁からの受注、および営業活動を行った。

(3) 封入等軽作業部門（作業センター）

封入封緘作業、委託業務など、周辺区市の通知書の封入発送業務を中心に受注した。また近隣企業から、ノベルティグッズの通年業務を受注した。作業以外の活動として、「働くうえでの美味しいコミュニケーション」をテーマにグループワークを通年で実施した。

(4) 喫茶ベーカリー部門

ご利用者に適した製パン方法を工夫することにより、ご利用者がより多くの製パン作業に関わることができるようになった。保育園からの受注量が増え、売上増につながった。

(5) 食堂部門

収支改善のため、メニューの見直しや近隣企業等への広報、割引セールなど新規顧客の来店のきっかけとなるような取り組みを継続的に実施したが、成果は芳しくない。

(6) 賃金・工賃について

①就労継続支援 A 型（雇用）

利用者と雇用契約を締結し、最低賃金以上を支給した。

②就労継続支援 B 型

武蔵野福祉作業所、ワークステージりぶると共同で、法人内就労継続支援 B 型事業における工

賃支給規程の標準化を行った。そのため、例年 10 月に実施していた工賃評価を 3 月にずらして実施した。

- (7) 就職支援・定着支援における取り組み  
今年度の就職者数は 1 名。(就労継続支援 B 型)

#### 4. サービス向上のための取り組み

- (1) 職員研修  
就労支援技術の研修を中心に、法人内外の職員研修を実施した。
- (2) 人権擁護虐待防止に向けた取り組み  
人権擁護セルフチェック（毎月）、人権擁護事業所チェックリスト（年 2 回）の実施
- (3) 福祉サービス第三者評価（平成 30 年度受審）の結果に基づく改善事項の公表と実施

#### 5. その他

- (1) ご利用者向け広報「けやきだより」発行（3 回）
- (2) 防災訓練実施
- (3) 苦情受付状況 0 件

令和元年度 指定障害福祉サービス事業  
「ジョブアシストいんくる」( 就労移行支援・就労定着支援 ) 事業報告

1. 事業運営について

ジョブアシストいんくるは、精神障害者、発達障害者、軽度知的障害者などを対象として、就職を志す人を支え、企業就労を実現し、継続するための支援を行ってきた。

(1) 利用の状況 就労移行支援 定員 20 名

① 令和元年度末登録者数 (単位：人)

事業別 (定員)	平成 30 年度末	新規利用開始	年度内利用終了	令和元年度末
就労移行 (20)	21	12	14 (内 12 名就職)	19

② 年齢別利用者数 (平均年齢 31.0 歳) 利用終了時もしくは年度末時点 (単位：人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	65 歳以上	合計
男性	0	12	4	4	0	0	0	20
女性	1	9	2	2	0	0	0	14
合計	1	21	6	6	0	0	0	34

③ 障害・度数別利用者数 利用終了時もしくは年度末時点 (単位：人)

級/度	身体	知的	精神	なし	計
1	0	0	0	—	0
2	2	0	4	—	6
3	0	2	8	—	10
4	0	16	—	—	16
5	0	—	—	—	0
6	0	—	—	—	0
なし	—	—	—	2	2
計	2	18	12	2	34

令和元年度の 1 年間で 12 人が新たに利用を開始している。新規利用者はその多くが各地域の就労支援センターや相談支援事業所などの関係機関からの紹介によるものである。

平均利用者数は 19.2 人と昨年度 (18.7 人) と比べて向上している。

令和元年度利用者は累計で 34 名になり、平均年齢は 31.0 歳であった (利用終了時、年度末に利用継続の場合は年度末時点で)。そのうち、精神障害の手帳を取得している方が 14 名。また、身体、知的、精神の各手帳種別にまたがって、発達障害の診断もしくは傾向のある方が 16 名に達し、両方で利用者の中で多くの割合を占めている。

(2) 就職者の状況

令和元年度は 12 名が企業等に就職した。(4 月 1 日採用内定込み)

手帳種別では精神の手帳を持つ方が半数以上を占める。また、全体のうち 7 名が発達障害の診断、もしくは傾向があると言われていた方である。

就職先は特例子会社が増え、事務補助作業が中心になっている。

就業地域は市内近郊、多摩地域など通勤至便な地域が半数となっている。

※開設以来 (6 年 8 カ月) では 71 人が就職し、のべ 17 人が残念ながら離職に至っている。

主な就職先は以下の通り。

株式会社松屋フーズ、ゆうせいチャレンジド株式会社、パーソルチャレンジ(株)  
グリーンシステムズ、スバルテクノ、(株)ジャックポットプランニング、タワーレコード(株)  
LINE ビジネスサポート(株)、株式会社 LIXIL、みずほビジネス・チャレンジド(株) 他。

令和元年度 就職者の状況

(単位：人)

手帳種別	人数	業務内容	人数	就業場所	人数
精神	6	事務系	3	市内近隣	3
知的	6	事務補助系	6	都心部	6
身体	1	作業系	1	多摩地域	2
なし		店舗系	1	区部西部	1
計	12	厨房系	1		
		清掃系	0	計	12
		計	12		

(うち発達障害は7名)

\*重複あり

2. 支援の取り組み

(1) 支援プログラムについて

就労トレーニング・就活プログラム・パーソナルアシストを個人別利用カリキュラムにより実施した。また、個別に選択や組み合わせのアレンジを行うにあたり、利用者の理解を助けるために、個別面談やプログラム見学などを行った。

① 就労トレーニング (作業)

・ジョブローテーション：「封入等作業」を基本作業としつつも、適性に合わせて幅広い作業種に携わる機会を関係機関と連携して提供した。(主な作業内容：封入封緘作業、清掃業務、図書館受託作業、厨房調理補助作業)

・企業体験実習：民間企業の協力で職場の見学・体験など施設外支援を多数おこなった(延べ 25 人)。また、東京しごと財団や東京労働局主催の企業体験実習も積極的に利用し、企業実習の機会を数多く提供した。

② 就活プログラム

ビジネススキルアップ (ビジネスマナー)、オフィスワーク (事務スキル)、メモのとり方、セルフラーニング (自習機会) など就職活動に必要な知識、技術獲得の機会や、グループワーク、JST、グループラーニングなど利用者同士でのコミュニケーションスキルの向上を図る機会を幅広い利用者層に合わせて多層的に設定し実施した。

③ パーソナルアシスト (企業就労への支援)

履歴書作成や面接訓練などをきめ細かく実施し効果を上げた。

求職活動や就職面接、雇用前実習、トライアル雇用に同行し、就職活動をサポートした。

(2) 活動時間 月曜日から金曜日、8:30~17:00 の間で、各人の状況やプログラムの選択に合わせて柔軟な時間設定と利用日でカリキュラムを作成した。

(3) 利用契約と個別支援計画 利用契約を結び、個別面談を月 2 回以上実施し、本人の意向に沿って個別支援計画を策定し、3 か月ごとにモニタリングを行った。

(4) 訓練手当について

就職に向けてのプログラムとしての意義から、作業実習に関わる時間については、東京都最低賃金の 3 分の 1 相当額を訓練手当として支給した。(年間平均で時間あたり 334 円を支給)

(5) 就職後の定着支援

就職者については、半年を目安に定期訪問や面談などの定着支援を行った後、状況を見て各地域の就労支援センターにつなげていった。

年 4 回、就職者の会を開催し、いんくる開設当初から現在に至るまでに就職した方の状況確認を行った。

3. 就労定着支援事業の実施。

就職後の定着支援充実を図るため、平成 30 年 10 月から「障害者就労定着支援」の事業を開始した。

毎月最低 1 回は本人との面談を行い、必要に応じて会社訪問を行い、関係調整を実施し企業就労の定着をはかった。

就職後 6 月を経過しての登録になるため順次契約を進め、平成 31 年度末の時点での登録者は 17 名となった。



#### 4. 生活困窮者就労準備支援事業と被保護者就労準備支援事業

武蔵野市から生活困窮者自立支援事業の一部である就労準備支援事業と被保護者就労準備支援事業を受託して支援を一体的に実施した。自立相談を請け負う福祉公社や生活福祉課と毎月定期的にケースカンファレンスを行い、連携関係を構築した。従来から行っている「就活カフェ」や個別の相談による支援を中心にしながらも、継続的にコミュニケーションプログラムや PC 講座、PC 入力などのプログラムに参加する方も増えてきている。

#### 5. サービス向上のための取り組み

##### (1) 職員研修

就労支援の支援技術向上のため、以下の研修に職員を派遣した。

- ・就業支援基礎研修
- ・就業支援実践研修
- ・職場適応援助者支援スキル向上研修
- ・生活困窮者支援事業実施者向け研修 他

##### (2) 苦情受付状況 0 件

##### (3) 人権擁護虐待防止への取り組み

法人全体の人権擁護虐待防止委員会の設置に加え、施設単位でも自主チェックリストの実施などの取り組みを行った。

##### (4) 保健衛生

定期健康診断、内科検診等を実施した。

##### (5) 大規模災害時対応

大規模災害時を想定した初動マニュアルを整備し、地震を想定した避難訓練を 2 回実施した。

以上

令和元年度「武蔵野市障害者就労支援センターあいる」事業報告

1. あいる登録者、支援の状況

(1) 登録者全体の状況（全 329 名の内訳）

手帳別人数		年代別人数		状況別人数	
手帳種別	人数	年代別	人数	状況	人数
身体障害	22	18～20 歳	17	在職	232
知的障害	123	21～29 歳	83	求職(在宅)	34
精神障害	178	30～39 歳	70	求職(施設)	47
なし	6	40～49 歳	101	その他	16
計	329	50～59 歳	42	計	329
		60 歳以上	16		
		計	329		

令和 2 年 2 月末時点で登録者は 329 名となった。精神障害者手帳所持者が登録者の半数以上。また、在職者の登録が 7 割を占める。また、40 歳以上の登録者が約半数にのびることから高齢化が進行しているといえる。

(2) 新規就職者の状況

- ・新規就職者数は 33 名。
- ・手帳種別では精神障害者保健福祉手帳が全体の 5 割強を占める。
- ・年齢別では 40 歳以上が約 5 割を占めている。

(3) 離職者の状況

- ・離職件数は 13 件。
- ・手帳種別では精神障害者保健福祉手帳所持者が 7 割を占める。

(4) 支援の状況

- ・来所者は例年に比べ増加傾向にある。電話相談は減少の傾向にある。
- ・定着支援件数が大幅に増加している。

<支援内容別件数>

合計（件）

職業相談（就労全般）	3,988
就職準備支援（適性、能力の把握、就労意欲や職業能力の向上等）	257
職場開拓件数（独自の職場開拓）	29
職場実習（通勤援助、職務分析等）	106
職場定着支援（通勤練習）	385
離職支援（諸手続き、調整等）	12
通院同行	22
家庭訪問	15

## 2. 支援の取り組みについて

(1) 市内就労移行支援事業所等との連携体制の強化をはかり、障害のある方の就労と職場定着につなげる。

以下の内容で武蔵野市障害者就労支援ネットワーク会議を開催した。

第1回 7月30日「就労定着支援事業を通じて、定着支援の在り方を考える」51名参加

第2回 11月12日「精神科医療機関による就労支援の今を知る～吉祥寺病院デイケア室の取り組みから」30名参加。

3月24日に第3回の武蔵野市障害者就労支援ネットワーク会議を予定していたが、新型コロナウイルス感染症対応の影響により中止した。

(2) 主に市内の障害者雇用未達成企業を中心とした雇用先・実習先開拓、企業支援をする。

10月30日に武蔵野市、三鷹市、ハローワーク三鷹共催により「障がい者の就労を考えるつどい」を開催し、188名の方に参加いただいた。その中で東京都による「中小企業雇用応援事業」について実際の事例を交えてサービスの内容を紹介した。

武蔵野市自立支援協議会はたらく部会と連携し、実習受け入れ企業を増やしていくための取り組みを進めている。

### (3) 就職準備支援

①武蔵野市庁舎内実習を2回実施した。計16課で実習を受け入れた。

②企業実習が増加。34件実施した。

### (4) 余暇支援

①茶話会：毎月第1土曜日に実施。延べ48名が参加。

②交流会：以下の2回実施。

第1回 9月13日（金）19:00～21:00 コーキーズハウス 37名参加

第2回 2月21日（金）19:00～20:30 武蔵野スイングホール 43名参加

③1月から3月まで、毎月1回土曜日に知的障害の在職者を対象に職場定着プログラムを実施した。

## 3. 職員育成

### ①事例検討会

帝京大学元永教授をスーパーバイザーに招き、事例検討会を全7回実施。主に自己理解の不十分さが背景にある、かかわりの難しいケースを取り上げ、具体的な今後の支援方針について検討を進めた。

### ②各種専門研修

専門知識とノウハウの獲得を目的に、多摩精神保健福祉総合センターや産業労働局、障害者職業センター等の主催による研修に多数参加した。

以上

令和元年度 指定障害福祉サービス事業  
「武蔵野福祉作業所」(就労移行・就労継続 B 型・生活介護)事業報告

1. 事業運営について

4月に新卒3名、中途2名の計5名の入所者を迎え、退所者が2名となった。年齢の分布をみると60歳以上の利用者が9名となり、内70歳以上が3名となった。平均年齢も39.7歳と高い。高齢利用者の適正なサービス利用については更なる検討が必要となっている。利用者全体として支援の度合いが高くなっており、食品・受注とも作業支援の取り組みには新しい視点が必要である。就労収入は、新型コロナウイルス感染症の影響も重なり、前年度減となった。現状の作業種と利用者が力を発揮できる作業種とのマッチングを図ることが今後の課題となっている。

2. 利用者の状況と活動全般

(1) 利用者数 令和2年3月31日現在 (単位人)

事業別 (定員)	前年度末	入所	事業間異動での増減	退所	今年度末
就労移行 (6)	1	0	△1	0	0
就労継続 B 型(64)	64	5	△2	2	65
生活介護 (10)	9	0	3	0	12
計	74	5	0	2	77

(2) 年齢別利用者数 (平均年齢 39.7 歳) 令和2年3月31日現在 (単位人)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	合計
男性	3	12	15	7	7	3	2	49
女性	0	8	6	5	5	3	1	28
合計	3	20	21	12	12	6	3	77

(3) 障害・度数別利用者数 令和2年3月31日現在 (単位人)

		愛の手帳					精神手帳			合計
		1度	2度	3度	4度	なし	1級	2級	3級	
身障手帳	1級	0	2	0	1	1	0	0	1	5
	2級	0	1	1	0	2	0	0	0	4
	3級	0	1	1	0	0	0	0	0	2
	4級以下	0	0	2	0	1	0	0	0	3
	なし	0	23	35	4	0	0	1	0	63
	合計	0	27	39	5	4	0	1	1	77

(4) 障害者自立支援法による障害支援区分の数

未確定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
20	0	9	27	17	4	0	77

(5) 活動時間

基本的な活動時間は9:00開始とし、終了時間はグループによって16:00を基準に前後15分の中で設定している。時間構成は、4コマの作業時間の区切りで15分休憩と昼休みを入れている。利用者個々の要望に合わせ、利用時間、利用日数を決めるよう

にしている。

(6) グループワークプログラム

少人数グループプログラム2種を実施。

名称	目的	内容
WGつながる (水曜日 年6回実施)	ご利用者と地域が様々な形で繋がり、相互理解を深め、地域の中で事業所が役割を持てることを目指す。	地域でのボランティア活動(商店街のチラシ配り、清掃、夏祭り準備など)
WG夢の扉(健康体操) (毎週木曜日)	体の動かし方を学び、自分の体について見つめなおす。運動を続けることで、肥満や筋力低下の予防を目指す。ストレッチで疲労回復や心身の安定を図る。新年会で発表の場を設け、意欲的に取り組める内容とした。	講師による軽運動プログラムに沿って実施。

(7) ワークショッププログラム(毎週木曜日)

専門講師による表現活動を行った。館内、やさしい食堂七福やあったかまつりでの作品展示を行った。

(8) 作業活動と工賃

作業活動は、受注事業で新規の取引を開始する等収入の維持に努めた。食品事業では、新型コロナウイルス感染症の影響で団体客の売り上げが伸び悩みレストラン部門の売り上げが減少した。

売上実績表(単位:千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H30合計	3,197	3,627	3,708	3,733	3,181	3,137	3,973	4,275	3,433	2,961	3,087	3,359	41,671
R1合計	3,423	3,320	3,851	3,986	3,157	3,438	3,723	3,466	3,536	3,074	2,991	3,134	41,104

工賃支給実績(多機能合計の月平均)は、平成30年度13,412円に対し13,253円となった。今年度は、工賃評価時期を6月から3月に変更し、法人内の就労継続支援B型3事業所と工賃評価の方針等を整え実施した。

(9) クラブ活動

少人数で年3回実施。種類は、「あおぞら」「カラオケ」「ビデオ鑑賞」「スイーツ」とし、各回参加者の打合せによって内容を決定した。尚、クラブ活動に参加しない選択肢も設け、希望しない利用者が作業に従事できるように配慮した。

(10) 年間行事

施設で企画する行事は以下の通りに行った。

①日帰りバスハイク お台場

5月10日(金)、5月24日(金)、6月7日(金)

利用者 68名 職員 19名 ボランティア 4名 計91名

②宿泊旅行 勝浦、鴨川方面

・11月6日(水)～7日(木) 勝浦、鴨川方面

・9月26日(木)～27日(金) 勝浦、鴨川方面

・10月3日(木)～4日(金) 江ノ島、青梅方面

※台風15号の影響で一部、日程と行き先を変更。

利用者 70名 職員 23名 ボランティア 2名 計96名

③新年会

1月6日（月）

新成人・勤続者のお祝い、夢の扉発表、書初め、自治会催し物（合唱、ソーラン節）等

利用者 69名、招待ボランティア 3名、職員 14名 計 86名

#### (11) 自治会

利用者の中から、会長1名、副会長1名、書記2名、会計2名を選挙により選出し、その6名からなる役員会を中心に本人活動の支援を行った。主に年4回の自治会全体会の企画運営の支援を行った。

### 3. その他の活動

#### (1) 保護者連絡会

5月、9月、3月の年3回を原則として施設より利用者家族に向けた情報伝達の間を設け、福祉政策、行政の動向、地域の動向、施設の動向等を情報発信する機会とした。

#### (2) 広報紙

「むさしのだより」を毎月最終月曜日を基準に、利用者向けに発行した。編集には利用者も参加し、利用者の目線での情報発信に努めた。

#### (3) 保健衛生

看護師による日常看護としての利用者の健康管理と嘱託医（内科・精神科）による健康相談を毎月5回、健康診断、歯科検診を実施した。また、感染症対策、緊急医療対応シミュレーション研修を行った。

#### (4) 給食

法人の栄養士が献立を作成し、就労支援事業として職員と利用者で調理し、給食を提供している。主食と主菜の選択食をそれぞれ毎月1回行った。

#### (5) 総合防災訓練

消防（避難）訓練など年間3回実施した。

#### (6) 地域交流

##### ① イベントへの出店（やさい食堂 七福）

4月2日（日） 桜まつり

5月26日（日）、7月20日（土）、9月21日（土）

11月24日（日）、3月22日（日）

9月1日（日） ムチューわくわくフェスタ

10月19日（土） 「むさしのあったかまつり」食品販売・作品展示

三鷹タワーズマルシェ

##### ② 市立大野田小学校への学習協力

10月2日（水） 出前授業「みんな一緒に」4年生の「総合的な学習の時間」

10月7～10日 体験授業（見学・作業体験）

##### ③ 成蹊大学理工学部システムデザイン科との福学協働の取り組み

「プロジェクト実習」への協力（見学受入・出前授業・研究へのフィードバック等）

##### ④ やさい食堂七福と武蔵野市健康づくり事業団との連携

・12月 健康づくり事業団：生活習慣病予防講座協力

・2月 健康づくり事業団：血圧セミナー協力

#### (7) 職場内研修・法人研修

職場内研修…りぷるとの合同研修（支援研修）、就労系事業所合同研修（権利擁護

研修)を実施

(8) 施設外研修

外部の研修への職員を派遣し、参加者は職員に研修内容を講義し共有を図った。

4. 苦情受付状況

苦情は、一般1件、利用者2件。年間を通して3件。一般の苦情は、イベント出店に関するもので主催者側にも報告し、以後改善を図った。利用者に関する苦情については、解決済み。

5. 第三者評価

前年度、第三者評価を受審している。評価機関：一般社団法人 Riccolabo.

6. 年間実績一覧

多機能型・定員	80名	ボランティア活動延人数	17名
		見学者数(一般見学)	224名
利用者延数(年間)	15,804名	見学者数(利用に向けての見学)	12名
サービス提供日数(年間)	243日	実習生(一般・学生等)延人数	31名
1日平均	75名	事前の体験利用者数	68名
		苦情件数	3件
		事故件数	2件

令和元年度 指定障害福祉サービス事業  
「ワークステージりぷる」(就労継続 B 型)事業報告

1. 事業運営について

年度初めに新卒者 1 名が入所し、登録者数は 22 名となった(定員 20 名)。開設して 6 年目となり、基本方針「作業等はたらく力の支援」「自立にむけた社会生活力支援」の二本の軸を継続し、作業提供を日中活動の中心に据えつつ、一部余暇活動や生活に役立つ体験をとり入れた活動を行った。

工賃向上計画のもと新規の顧客や未開拓領域の案件を求めた結果、他事業所(ワークセンターけやき、武蔵野福祉作業所)との連携を深めることで、官公庁系の封入業務、食品の箱詰め業務、防災用品の組み立て業務など新しい分野の作業を受託することに成功している。これは利用者の多様な就労体験につながった。

年度後半には新規顧客との関係にも動きがはじめ、印刷業者一件(府中市)、健康用品販売業者一件(杉並区)との取引を開始することとなった。

主な既存顧客であるダイレクトメール発送代行業者からの受注額推移が横ばいである中、他法人事業所の下請けにまわることで提供作業量を確保し、売上額下落をできるだけ止めることも行った。

ワークセンターけやきやいんくるの利用者を複数名受け入れ、大型案件のオーバーフローする作業量を調整し、協力して取り組んだ。

2. 利用者の状況と活動全般

(1) 利用者数

令和 2 年 3 月 31 日現在 (単位人)

事業別(定員)	前年度末	入所	退所	今年度末
就労継続 B 型(20)	21	1	0	22

(2) 年齢別利用者数(平均年齢 35.0 歳)

令和 2 年 3 月 31 日現在 (単位人)

	10 歳代	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	合計
男性	1	5	2	5	1	14
女子	0	2	2	3	1	8
合計	1	7	4	8	2	22

(3) 障害・度数別利用者数

令和 2 年 3 月 31 日現在 (単位人)

		愛の手帳					合計
		1 度	2 度	3 度	4 度	なし	
身障手帳	1 級	—	—	—	—	—	—
	2 級	—	—	—	—	—	—
	3 級	—	—	—	1	—	1
	4 級以下	—	—	—	—	—	—
	なし	—	8	7	6	—	21
	合計	—	8	7	7	—	22

(4) 障害者自立支援法による障害程度区分の数

未確定	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
6	1	4	8	3			22

(5) 活動時間

基本的なサービス提供時間は 9:00 から 17:00。一日 6.5 時間の就労時間を保証した。また作業量が増大した場合、参加の可否を事前に確認したうえで稀に 17:30 まで



のサービス提供も行った。終業時間については個別にご利用者（またはその家族）の意向を確認し、希望のあった場合は定時を 16:00 とし、利用時間を選択できるようになっている。

## (6) 作業支援と工賃

作業支援は、ダイレクトメールの封入・封緘を中心に多様な就労の機会を提供できるよう心がけた。グループ表と部屋の配置図を活用し、作業内容と作業の場所が理解できるように構造化を図り、利用者が自発的に動けるよう環境を整えている。利用者への働きかけについて「肯定的に伝える」ことを職員の基本姿勢に据え、利用者の自己肯定感と動機付けに寄与できる環境づくりを行った。毎回年度中に一度、工賃評価の見直しを行っているが当年度は工賃支給の改定を令和 2 年 4 月に控えている関係から行わなかった。

### 売上実績表（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
28年度	590	664	775	774	738	810	747	790	901	739	892	1,258	9,678
29年度	818	778	910	819	814	873	672	700	712	623	850	913	9,480
30年度	678	760	945	585	844	474	789	650	704	742	504	566	8,240
令元年度	681	622	608	567	488	600	564	689	673	726	812	763	7,797

工賃支給実績（月平均）は 25,230 円（小数点以下切捨）となり、平成 30 年度と比べ 1,445 円低下、時給換算では平均 216 円となっている。支給額が低下した主な要因としては主要顧客の出すダイレクトメール封入関連の単価が総じて低いという点に加え、競合する事業所が多数存在するため、取引先への単価交渉が難しいということがあげられる。

## (7) 生活支援

### 1. 当番制の担当業務を利用者へ提供

- ・朝のミーティング後、担当する利用者が前に出て「体操」と「挨拶・報告・連絡・相談」の掛け声をリードし、全員で発声練習。職員が支援。
- ・清掃…事業所内、建物周辺の清掃をグループで行った。
- ・給食…給食の食数計算、食具の準備と配膳を利用者が行った。職員が支援。
- ・取引先訪問…納品、資材の引き取りに利用者が同行した。

### 2. 昼食の自由選択

- ・昨年度に引き続き、毎週金曜日の昼食を自由選択の日とした。給食以外の食事の注文、購入を職員が支援した。

### 3. 軽食づくり

- ・利用者の生活力向上と大型連休中に生じる家族の負担軽減を目的に特別活動を行った。市内コミュニティセンターの炊事場を借り軽食づくり体験を提供。（活動日は 2019 年 5 月 2 日 利用者 10 名、職員 3 名参加）

## (8) 年間行事

行事については事前に利用者の意見を取りまとめ、計画段階から参画できるような展開を大切に一日外出、旅行、忘年会、新年会を実施した。

### 1. 一日外出 コカ・コーラ社工場見学 7月12日（金）

三鷹の森ジブリ美術館見学 7月19日(金)

2. 宿泊旅行 青梅市方面 10月10日(木)～11日(金)
3. 忘年会 12月27日(金) りぷるにて
4. 新年会 1月17日(水) レストラン「七福」にて

3. その他の活動

(1) 広報紙

「りぷる通信」(A4、1ページ※写真掲載号は両面刷り) 毎月発行。職員の考えが利用者にわかりやすく伝わる内容を目指した。

(2) 保健衛生

利用者の健康診断(年2回)、歯科検診(武蔵野市在住者のみ)を行った。

(3) 給食

武蔵野福祉作業所で調理した給食をランチケースに盛り付け、運搬し毎日提供。

(4) 総合防災訓練

北町ほっと館との合同訓練に参加。消防(避難)訓練など年4回実施した。

4. 職員研修

- ・事業所内研修を行った(6名1回)。テーマは「虐待防止」。
- ・法人内就労支援部門の研修に参加した(2回)。テーマは「見積もりの方法」「権利擁護」

5. サービス提供記録

前日のサービス提供内容について、翌朝のミーティング後、利用者本人が確認、押印する方式を継続した。

6. ケース検討

利用者同士の対立ケースをテーマに、外部の心理士をスーパーバイザーとして招き、ケース検討を行った。(実施日は2020年8月23日 職員5名参加)

7. 年間実績一覧

就労継続支援B型・定員	20名	見学者数(一般見学)	12名
		見学者数(利用に向けての見学)	0名
利用者延数(年間)	4632名	実習生(一般・学生等)延人数	0名
サービス提供日数(年間)	240日	事前の体験利用者数	0名
1日平均	19.3名	苦情件数	0件
		事故件数	0件

令和元年度 みどりのこども館 児童発達支援事業  
「こども発達支援室ウィズ」 事業報告

1 施設の運営について

当施設は武蔵野市より委託を受け(指定管理)、児童福祉法の児童発達支援事業として運営している。対象児は3～5歳児で、今年度から1日の定員を20名にした。この事業の他に、学齢期(小学1年生～高校3年生)の肢体不自由児を対象とした放課後事業「つばさ」を実施している。

一昨年度と昨年度に定員超過で年少児の利用日数を制限したことや、令和2年度からの児童発達支援センター化を見越して、1日定員を10人から20人に増やした。

今年度は子どもの登録が年間で20名(年度途中に入退園あり)、平均利用数が14.8/日となり稼働率が74.0%であった。定員を倍にしたため、稼働率は下がっているが、実利用人数は昨年度より増えている。

定員増に伴い、送迎車を大型車(マイクロバス)にした。また、センター化の特区申請に向けてカウンターキッチンであった調理室の窓に配膳用の柵ができ、給食の配膳は衛生的かつ、利用人数分に応じた方法でできるようになった。しかし、活動室などの子どもたちが過ごす物的環境面は昨年度と同じである。活動のグループ編成や部屋の使用方法を職員間で検討しながら、定員増に対応した1年であった。

2 通園を利用した子どもの概況 年間を通した状況(単位人)

年齢別利用児数(令和2年3月31日)

	3歳児 (年少)	4歳児 (年中)	5歳児 (年長)	合計
男児	4	4	1	9
女児	3	4	4	11
合計	7	8	5	20

障害程度別利用児数

		愛 の 手 帳					
		1度	2度	3度	4度	等級不明 (申請中も含む)	なし
身 障 手 帳	1級						
	2級		2				
	3級			1	1		
	4級以下						
	等級不明 (申請中も含む)						
	なし		1	7	2		6
てんかん1名、染色体疾患1名、遺伝子疾患2名							

3 療育内容(通園関係)

(1) 活動時間

通常の活動は年少から年長を通して、9:30～14:00までで実施した。昨年度より4月と8月を除く毎月1回、16:00までの延長保育を実施している(年中・年長児対象)。

## (2) 活動内容

個別支援計画に沿って、遊びや基本的生活動作の練習などからの発達支援を行った。設定活動では制作・感触あそび・運動・クッキング・誕生会・季節行事・幼稚園保育園交流などを実施している。

## (3) 音楽療法

引き続き講師を導入して実施した。通園児のニーズに合わせて、目的別小集団に分けて行なった。その結果一人一人のきめ細かい対応が行えた。

## (4) 動作法プログラム

引き続き講師を導入して実施した。通園児のニーズに合わせて、目的別小集団に分けて行った。

## (5) 食事

給食は総合センターで調理し、館に搬送し配膳(盛り付け)をしている。それぞれの児に応じた盛り付けや食具の工夫をして、食事の仕方や偏食の改善に配慮している。また、摂食や嚥下の難しい児には特別食で対応している。

## (6) 送迎

在籍児全員が送迎を利用している。基本的にはマイクロバスでの送迎となるが、きょうだいで利用している児のみ乗用車にて送迎している。

## (7) 保護者との関わり

- ・保護者会を年に4回、個人面談を各3回開催し、通園児全員の家庭訪問も実施した。なお、親同士の関係作りや経験交流のために、親の会の集いを設定した(年間8回)。
- ・土日の行事として、家族参観日を6月の土曜日に実施した。12月のお楽しみ会は、インフルエンザ流行拡大のため、今年度は平日へと延期した。
- ・家族向け広報紙「ういずきっず」を年2回と卒業文集「えがお」を発行した。

## 4 行事等(通園関係)

行事名	月日	行 事 内 容
入園式	4/5	入園式・保護者会
保育園・幼稚園との交流		千川保育園、武蔵野中央幼稚園、みやま幼稚園、北町保育園・・・各園1～3回 吉祥寺保育園・・・定期交流・年4回
親子遠足	10/2	昭和記念公園(立川)
家族参観日	6/8 12/25	保育参観・父親懇談会 お楽しみ会
季節行事		あそぼうデー、ミニコンサート、おもちつき
誕生会		該当月の誕生祝い
園外保育		乗り物体験 など
プール		屋外プール(7月～8月)
卒園式・お別れ会	3/27	卒園式(就学5人、転園1人)

避難訓練		こども館全体訓練 2 回 災害時伝言ダイヤル訓練 2 期間
保護者会		年に 4 回実施 (4 月、7 月、12 月、3 月)
個別面談		年に 3 回実施 (5.6 月、10.11 月、2.3 月)
入園説明会	3/7	事業説明・利用契約・インテークなどを個別に行う

5 「つばさ」の概況 令和 2 年 3 月 31 日現在

	登録人数	計画回数 (実施回数)	参加延べ人数
つばさ	10 人	29 回 (26 回)	79 人

武蔵野市内在住で小学校 1 年生から高校 3 年生までの肢体不自由児を対象に放課後や夏休みの余暇支援を行う。10/30 (水) の活動で、NPO 法人プレシヤスネットの吉祥寺ハロウィンフェスタ 2019 へ利用児 8 名が参加した。

6 その他の事業

- (1) 同窓会 (ウィズ卒園児、在園の経験のある小 1～小 3 までの親子)

8/3 (土) 10 時～12 時 卒園・在園経験児 12 家族

- (2) ボランティア・実習生

ボランティアは年間で延べ 124 名

※感染症の時期は受け入れなしのため、昨年度よりも受け入れ人数は減った。

今年度の保育実習生は受け入れなし

- (3) 保健・衛生

歯科健診を年 2 回 (在園児 1 人につき、1 回)、尿検査、耳鼻科健診、内科健診を年各 1 回実施した。

また、職員向けに歯科巡回相談が年に 2 回あった。(多摩口腔リハより指導医が来所した。)

- (4) 避難訓練

館全体で 2 回、火災時の避難訓練を実施した。また災害時の情報伝達訓練として災害時伝言ダイヤルの利用訓練を 2 期間実施した。

- (5) 職員研修：

- ① 内部研修 (事業所のみ・法人研修を除く)

動作法まとめ/音楽療法まとめ/臨床心理士・作業療法士によるスーパーバイズ・フィードバック

- ② 外部研修

食品衛生管理者講習会/食品衛生講習/保健所研修 (熱中症)

都立小児総合医療センター研修/他事業所・学校見学/東社協研修/子ども育成課研修/発達基礎コース (ハビット) /小金井特別支援学校研修/東京学芸大附属支援学校公開/武蔵野市子育て講演会/くるみ幼児園公開療育/江東区 C O C O 公開療育 /人権擁護研修/ファシリテーション研修/児発管理責任者更新、強度行動障害支援者養成研修 等

7 他機関との連携・協力

- ・教育委員会：通園児の実態把握表の作成・提出、個別行動観察の受け入れ
- ・他療育機関：並行利用児の幼稚園訪問・電話連絡、児発事業者連絡会への参加
- ・子ども家庭支援センター：ケースについての連絡・協力
- ・特別支援学校：卒園児に係るカンファレンス、就学先訪問、学校からの見学受け入れ等
- ・図書館読み聞かせの会事業への協力
- ・きょうだい交流会への参加
- ・武蔵野市ファミリー・サポート・センター講師「サポート会員スキルアップ研修」

8 苦情受付状況等

- ・苦情件数 1件（マイクロバスエンジン音への苦情）

【令和元年度 実績】

\*見学者数（一般見学）は、みどりのこども館全体の見学者を含む

定員	20人	ボランティア活動延人数	124人
登録利用者数（年間）	20人	見学者数（一般・行政・事業所関係者見学）	59人
利用者延数	3495人	見学者数（利用に向けての見学）	（保護者等）30人 （児）17人
利用延日数	236日	実習生（一般・学生等）数	0人
1日平均通園児数	14.8人	事前の体験利用者数	17人
		アクシデント・インシデント件数	154件
		車両トラブル件数	0件

# 令和元年度 みどりのこども館 地域療育推進事業 「地域療育相談室 ハビット」事業報告

## 1 事業運営について

(令和元年度の状況)

・職員増員に伴い、初回相談待機日数が30年度と比較して約6日減少し、待機日数は年間平均で約20日となっている。地域資源の活用と連携強化のため、幼稚園、保育所、教育支援センターなどからの紹介ケースに対し、保護者の同意のもと直接情報交換を行うことを通常業務化した。また、継続相談の件数、及び計画相談支援の利用者数は引き続き増加もしくは横ばい状態であり、全体の相談件数は増加傾向が続いている。

・親子グループは、市内児童発達支援事業所が営業日を広げたり、近隣市区の児童発達支援事業所の利用が可能であったため、対象者がおらず開催なし。

・土曜の来所相談件数30年度と比較し、来所による相談は2割減。受付時や受理面接時には土曜相談を希望しているケースも、平日と土曜の時程を提示することにより、より早い平日の選択に繋がったと考えられる。

(今後の方向性)

・児童発達支援センター化に伴い、子育て支援・発達支援に関わる機関の連携・ネットワーク化を担える人材の育成に努める。

・市から保健師が派遣されたことを受け、母子保健や子育て支援事業との更なる連携強化を図る。

・令和2年12月には療育相談と計画相談の一部がサテライト化することに伴い、スムーズな業務移管が出来るよう実務面の整理を行う。

・親子通園事業は30年度実績を踏まえ、たんぼぼクラスのみ実施。対象児は、医療や療育には出生後比較的早期から繋がっている状況である一方、いわゆる子育て情報をどこからも得られない現状を鑑み、子育て支援へ特化し実施する。

・子ども育成課より『地域型保育事業に係る障害児加算』の判定を新たに依頼により開始。

・施設訪問事業のうち、0123については相談内容が利用者支援専門員等、ハビット職員以外が適当なものが中心となったため、子ども政策課と協議し、子ども協会も了承の上、令和元年度で終了し職員への助言へ変更する形となる予定。

## 2 事業内容

開館日 月～金 月1回土曜日に相談を実施

受付時間 9:00～17:00

### (1) 療育相談事業

・対象 0～18歳までの子どもとその保護者

・スタッフ 社会福祉士・理学療法士・作業療法士・公認心理師（臨床心理士）・保育士  
相談員（非常勤）・心理相談員（非常勤）・言語聴覚士（非常勤）・医師（非常勤）・  
事務員（非常勤）

・内容 心身の発達に心配のある子どもに対する家庭での支援・生活指導・関係機関との調整、補装具や住環境の調整など、専門医師（整形外科医・児童精神医・小児科医）による家庭療育に関する相談。

### (2) 親子通園事業

・対象 発達障害等の未就学児とその保護者

- ・スタッフ 保育士・保育補助員（非常勤）
- ・内容 親子の通園を基本として、子どもの年齢や発達課題に合わせたクラスで数人（6名程度）のグループ活動をする。保護者とスタッフ間で子どもの状態像や発達課題、対応の仕方の共有のほか、利用サービスの円滑な活用への助言等を行う場とする。
- ・実施クラス（1クラス）  
たんぽぽクラス：0～2歳児。先天性障害・周産期トラブルにより発達に障害のある児、もしくは主に運動発達に遅れや障害のある児。

### (3) 施設訪問事業

- ・内容 保育所・幼稚園・子育て支援施設・学校など日中活動を行う施設スタッフへの支援。訪問依頼のある施設に訪問。療育的視点から保育士、教員への必要な助言を行う。
- ・スタッフ 社会福祉士・理学療法士・作業療法士・公認心理師（臨床心理士）
- ・訪問先 市内及び近隣市の保育園、幼稚園  
市内公立小中学校の特別支援学級  
0123 吉祥寺、0123 はらっぱ

### (4) 計画相談支援

- ・対象 0～18歳までの子どもとその保護者
- ・スタッフ 社会福祉士・理学療法士・作業療法士・公認心理師（臨床心理士）・保育士  
相談員（非常勤）・心理相談員（非常勤）・事務員（非常勤）
- ・内容 法内障害福祉・児童通所サービス等の利用に関するプラン作成、モニタリング等。

### (5) その他

- ・発達健康診査（健康課事業）に社会福祉士・理学療法士を派遣
- ・研修事業…①市内保育所の保育士を対象に実施（全9回実施、医師以外の専門職）  
「ハビット地域支援講習会 発達基礎コース」  
②その他依頼に応じて実施
  - ・ファミリーサポートセンター2回（心理士）
  - ・地域型保育事業向け研修1回（副館長・心理士）
  - ・桜堤児童館1回（理学療法士）
  - ・北町保育園2回（作業療法士・理学療法士）
- ・ハビット×ぐるりん（年3回）…理学療法士、作業療法士、臨床心理士によるミニ講座と相談。
- ・きょうだい交流会（年2回）…障害児をきょうだいに持つ子どもの交流会実施。
- ・保護者会…就学、児童発達支援事業利用に向け、先輩保護者から体験談を聞く会。各年1回開催。
- ・特別支援教育事業（随時）…特別な支援が必要な児が在籍する市内幼稚園からの武蔵野市補助金申請に対する園訪問及び意見書作成。

## 3 苦情受付状況

- ・件数 なし



【令和元年度 実績数】ハビット

療育相談	新規相談	256 件	親子通園 クラス名	グル ープ数	登録 者数	実施 回数	延参加組数 (見学者含)
	受理面接（初回面接）	205 件	たんぼぼ	1	4	9	29
	継続相談	2083 件	合計	1	4	9	29
施設訪問	保育園・幼稚園	111 件					
	0 1 2 3	21 件					
	その他	109 件					
発達健診	13 回実施	159 件					
医療相談	15 回実施	31 件	計画相談・モニタリングに 関する相談			1313 件	
	計画相談 計画作成	113 件	モニタリング作成			1040 件	

# 令和元年度 みどりのこども館 地域開放型事業 「おもちゃのぐるりん」事業報告

## 1 事業運営について

武蔵野市内在住の親子が自由に来館し、遊べる場を提供している。子どもの遊び場であり、保護者の交流の場となっている。常駐の職員がいることで気軽に子育ての相談ができ、また必要に応じて「地域療育相談室ハビット」と連携し、療育相談につなげている。

今年度もおもちゃ病院・手作りおもちゃの会・ワークショップやおもちゃの貸出し事業を実施するとともに、庭のある環境を生かし、自然に触れる体験として畑での種まきや収穫体験を実施した。また、館内にある「こども発達支援室ウィズ」「療育相談室ハビット」と連携し、子育て講座やこども館全体のおまつりを一緒に行った。

コミセン親子ひろばや保育園で行われているあかちゃんのひろばにおもちゃを 20 点程度持参する出張ぐるりんは、基本月 1 回実施した。また、桜堤児童館や子育てフェスティバルでは、ぐるりんコーナーを設置するなど地域の中でも活躍の場が広がってきている。

29 年度より実施している「手作りファースト・トイ」（妊娠 6 ヶ月の方から生後 5 ヶ月までの子どもと保護者対象）は、今年度も年 4 回開催した（産休まで仕事をされている方にも参加できるよう、内 1 回を土曜日に開催）。人気のおもちゃが作れることや、同じくらいの月齢のお子さんと知り合うことができ、参加者から好評であった。

また、ランチタイムは、遠方からの来館者や、小さいお子さん連れの家庭は公園よりも安心して昼食をとれるとのことで、夏季・冬季でも利用される方がおり好評であった。

令和元年度 12 月より初利用説明会を月に 1 回実施した。初めての利用は緊張するが、他にも初めての利用者があると心強い、利用のきっかけになったという声もあり好評だった。

また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、武蔵野市新型コロナウイルス感染症対策本部での決定に基づき、3 月 2 日より施設を一時休館とした。（5 月 10 日までの予定）

（なお、この事業の運営は、武蔵野市子ども協会に委託している）

## 2 事業内容

- ・事業 子どもと保護者がおもちゃで自由に楽しく遊べる場の提供
- ・対象者 市内在住の未就学児と保護者
- ・利用料 無料
- ・開館日 火～土の週 5 日間（日・月・祝日は休み）
- ・開館時間 10：00～16：00 ランチタイム 12：00～13：30
- ・スタッフ 子育て支援員 正規職員 2 名 嘱託職員 1 名 アルバイト数名

\* 支援員は保育士・幼稚園教諭いずれかの免許取得者、アルバイトスタッフは無資格者有

- ・おもちゃの在庫数 約 300 種類あり季節ごとのテーマに合わせて常時 70～80 個を用意している。
- ・その他の実施事業

手作りおもちゃの会・季節の手作りおもちゃや工作の催し・貸出し事業・おもちゃ病院（おもちゃ修理）・畑での体験・外部講師によるワークショップ・ボランティアによるおはなしひろば及び催し・絵本の歌い聞かせ・ハビット×ぐるりん・みどりのこども館看護師と話そう！・らびっとひろば

## 3 活動実績

【平成 31 年度 実績数】

- ・開館日数 226 日（前年度 250 日）
- ・利用児総数 5,909 人（前年度 6,845 人）
- ・平均利用児童数 1 日： 26.1 人（前年度 27.4 人）
- ・ひろば相談（随時対応） 413 件

年齢別	0 歳	1 歳	2 歳	3 歳	4 歳	5 歳	6 歳	その他	合計
利用児数	936	1,413	1,040	897	1,023	422	55	123	5,909

\*その他は小学生の兄弟姉妹等

4 年間実施行事

手作りおもちゃの会																			
4 月 5 日間	66 人 58 人	7 月 5 日間	59 人 161 人	10 月 5 日間	43 人 77 人	1 月 5 日間	35 人 44 人	5 月 5 日間	43 人	8 月 10 日間	58 人	12 月 5 日間	83 人	2 月 4 日間	中止	6 月 5 日間	9 月 5 日間	3 月 中	止

ハビット×ぐるりん（ハビット職員によるミニ講座と座談会）定員 10 人		
5 月 30 日	理想の子育て術？ほめて育てるをやってみよう！（臨床心理士）	10 人
9 月 20 日	丈夫な足をつくるには？ハイハイ、歩く、立つを考えよう！（理学療法士）	11 人
1 月 30 日	ハサミや鉛筆、スプーンやお箸が上手に使えるようになるには？（作業療法士）	8 人

みどりのこども館看護師と話そう（子育てに関するミニ講座と座談会）		
7 月 16 日	季節のライフ&ケア ～乳幼児の健康と夏の過ごし方～	7 人
11 月 19 日	季節のライフ&ケア ～乳幼児の健康と冬の過ごし方～	5 人

その他のイベント					
4 月	野菜の苗を植えよう 手形の巨大こいのぼり作り 手作りファースト・トイ	16 人 — 13 人	10 月	手作りファースト・トイ	5 人
5 月	母の日のプレゼント作り	55 人	11 月	ハートのアートを楽しもう	17 人
6 月	父の日のプレゼント作り	59 人	12 月	—	—
7 月	手作りファースト・トイ	9 人	1 月	けん玉チャレンジ 手作りファースト・トイ	— 5 人
8 月	—	—	2 月	ひいらぎいわしをつくろう 紙芝居&編み指人形作り	31 人 14 組
9 月	敬老の日のプレゼント作り 野菜の種まき	37 人 7 人	3 月	なかよしおひなさまをつくろう 祝・卒園★リモータで壁面を飾ろう	中止 中止

- ・おもちゃ病院（原則第 4 土曜日に開催） 実施回数：9 回（10・12・3 月なし）修理おもちゃ数：185 件おもちゃ病院協会のドクター養成講座に参加したおもちゃドクター 6 名が、壊れたおもちゃを無償で修理（材料費のみ個人負担）。個人・施設からの修理依頼を受付。
- ・おはなしひろば（毎月 1 回） 実施回数：10 回 参加人数：67 人  
偶数：大野田福祉の会  
奇数：紙ふうせんのグループ（けやきコミセンを拠点に活動）

- ・まっとうさんの絵本ライブ (隔月1回) 実施回数: 6回 参加人数: 85人  
ホワイトイーグル山元全さんによる絵本の歌い聞かせ。
- ・初めまして♪ぐるりん (毎月1回) 実施回数: 3回 参加人数: 7人  
初来館者対象のぐるりんの紹介及び利用説明会。
- ・おもちゃの貸出し (毎週水曜日及び第1土曜日) 貸出し数: 966件 登録者 175人  
子ども一人につきぐるりんの貸出しおもちゃ 126点の中から1点、1週間の貸出し
- ・出張ぐるりん (基本月1回開催) 実施回数: 9回 参加人数: 147人  
この他桜堤児童館まつり、子育てフェスティバルにぐるりんコーナーとして参加。
- ・らびっとひろば (年3回開催) 参加人数: 9人  
ハビット利用児を対象とした親子ひろばで、31年度は年3回(12・2・3月)に実施。
- ・みどりのこども館あそぼうデー 7月5日実施
- ・ぐるりんだよりの発行 偶数月に1,000部発行 保育園等市内施設に設置: 配布箇所 68施設
- ・ホームページやツイッターによる情報提供 ホームページ随時更新  
31年度 ツイート数: 175 ツイート フォロワー: 286人(令和2年3月末現在)

令和元年度 居住支援ユニット リエゾン 事業報告

【居住支援】

「やはたハウス」 (共同生活援助・共同生活介護)」

「グルーホームRENGA」 (重度身体障害者グループホーム)

1 事業運営について

やはたハウス(共同生活援助、4か所、6ユニット)、グループホームRENGA(重度身体障害者グループホーム)の事業を行い、合計43名の方々が居住支援を利用された。各入居者は、それぞれ日中支援のサービスが異なり(生活介護、就労支援B型、特例子会社へ勤務、介護保険のデイサービス等)、入居者個人の主体性を尊重し、多様な暮らしのスタイルを活かした形で支援してきた。

ここ数年の課題として上がる入居者の加齢問題、家族の高齢化による介護力の低下や、健康問題がより顕著に表れ、通院同行の支援や家族が死去するケースが増えた1年であった。今年度は、障害者地域生活支援ステーションわくらす武蔵野への福祉サービスの変更に伴い、きたまちハウス男性2名・女性4名、せきまえハウス女性1名、グループホームRENGA女性1名を受け入れ、移行スケジュールに則り4月から7月にかけて入居を完了させた。

また、今回の新規募集でグループホームRENGAに入居された方が亡くなった為、欠員の再募集を行い、選考の結果12月より新たな市内に住む在宅生活者が入居された。

各ユニットの支援力の向上と維持を目指し、定期的に運営課題を中心に主任会議の開催、各ユニットの会議を実施した。また、各ユニットの支援スタッフを対象に外部研修の参加、資格取得の講習会、内部において各ユニットの枠を超えて、グループホームでの生活の在り方議論する場を試験的に導入した。

グループホームRENGAでは、入居者の健康と生活を維持するために居宅介護や訪問介護のサービスを利用が欠かせない状況にある。居宅介護事業や介護保険関係事業、訪問医療、訪問看護等の医療関係事業所など多数の事業所と連携し、必要に応じて関係者会議を開催した。

2 利用者の状況(きたまちハウス1の体験枠は含めない)

(1) ユニットと入居状況 (令和2年3月31日現在 入居者合計 43名)

ユニット名	やはたハウス	せきまえハウス	きたまちハウス1	きたまちハウス2
入居者数	男性5名	女性6名	男性7名	女性7名

ユニット名	くすの木1	くすの木2
入居者数	男4名	男9名

重度身体障害者グループホームRENGA
女性5名

(2) 利用者数 (単位：人)

	前年度末	入所	退所	年度末
男	26	2	2	26

女	17	6	6	17
合計	43	8	8	43

(3) 年齢別利用者数 平均年齢 42.3歳

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	計
男	0	3	7	9	5	1	0	25
女	0	0	5	8	3	1	1	18
合計	0	3	12	17	8	2	1	43

(4) 障害程度別利用者数

愛の手帳		1度	2度	3度	4度	愛の手帳なし
身障手帳	1級	0	2	0	0	2
	2級	0	0	0	2	1
	3級	0	0	0	0	
	4級以下	0	3	0	0	
	身障手帳なし	0	15	9	8	
計		0	20	9	10	3

(5) 障害者総合支援法による障害支援区分の数

区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
1	6	11	16	5	4	43

(6) 利用日

年末年始を含めて通年利用

(7) 通所方法

本人単独で通勤・通所している方22名、通所施設の送迎を受けている方21名

(8) 年間利用状況

延べ人数 年間合計 12,293人 (利用サービス日数 365日)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
1,020	1,106	962	1,082	1,013	990
10月	11月	12月	1月	2月	3月
1,024	1,011	1,051	991	974	1,069

3 活動全般

- ・1年を通してホームで過ごせるように支援体制を組み、年末年始も含めて年間を通じて入居者の利用があった。
- ・ユニットにより、誕生会やスペシャルディナーの日の設定及び実施、また、クリスマス会や複数ユニット合同の外出活動も実施した。

4 その他の活動

(1) 保健・食事

- ① 健康管理 : 健康診断(2回)、歯科検診、インフルエンザワクチンの集団接種
- ② 食 事 : 七福の配食サービスを利用するとともに、入居者の好みに応じた「お楽しみメニューの日」を設定し実施した。
- ③ 通 院 : 必要に応じて通院の付き添いを実施した。

(2) 家族関係

1年間の支援のまとめを中心に、家族面談を実施した。また、家族の健康状態などを考慮し、週末の緊急利用に多数応えた。

(3) 見学者

行政関係者、他法人によるグループホーム職員などを受け入れた。

(4) 制度利用の支援

居宅介護（2人）、居宅介護（移動）（1人）、訪問介護（2人）、訪問看護（4人）、訪問リハビリ（介護保険：2人）、介護機器（介護保険：2人）、訪問診療（3人）、訪問歯科（1人）などの制度利用のために、関係の居宅ヘルパー事業者、訪問看護ステーションなど多くの事業者と連携して支援した。

(5) 地域との関わり

千川地域社協と桜野地域社協、今年度より関前地域社協の運営委員として地域の活動に参加した。また、各地域社協が主催するイベントに協力した。

(6) 消防機器設備の定期点検の実施

各グループホームの自動火災報知設備と自動通報設備の定期点検（年2回）を行った。

## 「きたまちハウス」 （短期入所）

### 【チャレンジ自立生活事業】

#### 1、事業運営について

きたまちハウス1、きたまちハウス2のそれぞれ1室を活用して、チャレンジ自立生活事業を継続した。ご利用者の状況に適した宿泊数(1週間～1カ月)を設定し、宿泊と共同生活の体験を通して自立心を高め、人間関係も含めた成長機会を提供した。

#### 2、実績

利用人数 20名、利用宿泊数 283泊(男 137泊、女 146泊)、延べ利用人数 360名

### 【リエゾン共通事項】 事業報告

#### 1、職員研修

##### (1) 法人研修

法人が主催する全体研修、実践発表会に参加した。今年度の実践発表会は当事業所からエントリーした

##### (2) 外部研修

・東京都が主催する、「サービス管理責任者講習」「強度行動障害支援者養成研修」「グループホーム基礎研修」に参加した。

##### (3) 内部研修

・従来の外部講師を招いて行う研修を改め、グループワークを中心に誰もが発言議論できる環境設定を行い、根源的な居風支援の在り方について、話し合った。

#### 2、地域関連機関や団体との連携

地域の市民による活動である「千川地域社協」「桜野地域社協」に運営委員として、引き続き参加、また今年度から新たに関前地域社協にも参加。

#### 3、防災訓練

拠点ごとに複数回 避難訓練を実施した。

## 令和元年度 武蔵野市障害者福祉センター事業報告

### 1、施設の運営の概要

平成 28 年度までは同施設内で障害者福祉サービス（専門相談、計画相談、自立訓練、生活介護）を「生活リハビリサポートすばる（以下、すばると言う）」として行ってきたが、平成 29 年度からは市の指定管理を受託し、施設管理、障害者講習会、通所移送事業などを含め一体的に運営している。また、平成 30 年 9 月からは、ケアプラン作成に関する透明性の確保を目的に相談部門を「障害者相談支援事業所ほくと」という名称の事業所として独立し運営を行っている。指定管理化により法内事業を含む障害者福祉センターの事業の実施主体は市であるという位置付けが明確となったことから市の基幹相談支援センターとの連携が緊密となり、結果、市のニーズが直接的に反映されるようになったため専門相談、自立訓練生活介護の利用者は徐々に増加している。一方で平成 30 年度から生活介護において短時間減算の制度が導入されるとともに、長時間の利用者が施設入所による退所などがあった関係で生活介護の収入は大幅に減じた。

### 2、部門別報告

#### (1) 管理部門

##### ①部屋貸し（地下会議室、調理実習室、印刷室、録音室、視聴覚室）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	41	40	45	35	35	42	41	44	46	41	55	20	485
延べ人数(人)	213	275	419	264	213	232	325	313	309	276	386	84	3,309

##### ②通所移送事業

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ人数(人)	538	549	612	636	513	582	669	571	562	480	488	490	6,690

##### ③障害者講習会（エアロビ、美術、太極拳、将棋、うた、卓球、体操、書道他）

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
実人数	36	49	55	45	6	62	48	47	31	30	26	0	103
延べ人数(人)	55	77	88	73	6	103	88	66	55	47	45	0	703

##### ④医療相談

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
件数(件)	6	6	6	5	6	5	7	7	6	9	7	7	77



⑤音楽療法 (5月からの月、土 各30回)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
延べ人数(人)	0	20	29	22	12	13	17	15	17	19	17	7	188

⑥行事・地域活動等

- ・センター講演会 11月8日(金) 参加者54名 講師 佐藤秀明氏  
「大好きなサッカーとともに 半身麻痺に立ち向かう僕の生き方」
- ・障害者福祉センター運営協議会  
第1回 平成30年8月1日(水) 平成29年度障害者福祉センター実績報告について  
第2回 平成31年度事業計画について 資料郵送による承認
- ・安全対策連絡会議 2回(9月24日、3月11日)
- ・避難訓練 2回(10月4日、3月18日)
- ・千川福祉祭り(9月25日)
- ・千川地区社協、千川地域防災会、サロン千川(年3回 職員派遣)
- ・東部フェスティバル(10月20日、物販)
- ・四小福祉の会(毎月第1金曜日)
- ・あったかまつり(10月19日、実行委員会 各4月から10月の月1回)

⑦職員研修

- ・高次脳機能障害者の支援に関する研修
- ・福祉用具、機器研修
- ・住環境整備研修
- ・虐待防止研修
- ・相談支援に関する研修
- ・年金制度に関する研修
- ・その他

⑧その他の運営管理

○苦情受付状況 5件

- ・送迎車内の芳香剤・香水・化粧などの匂いに関する苦情(5月14日)
- ・送迎車の駐車位置に関する苦情(5月21日)
- ・送迎の配車ミスに関する苦情(6月26日)
- ・送迎車運転手のサングラス着用に関する苦情(9月6日)
- ・咳エチケット指導に対する苦情(3月2日)

○事故発生件数 3件

- ・胃瘦増設し、経口での飲食を禁止されている利用者に対し、本人が麦茶を50ml程度飲むのを止められなかった。
- ・交換袋に個人情報の入ったメモが取り残されたまま別の案件に使用してしまった事故。(12月)

9日)

- ・ゆいっと相談員の交通事故(単独)による肋骨骨折(1月14日)

## (2) 相談部門

### ① 専門相談

ア) リハビリ相談(住宅改修、補装具等 電話、来所、訪問など) (延べ人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
専門相談	38	49	39	47	43	64	63	56	49	38	53	64	603

- ・心のバリアフリー啓発事業の講師派遣

イ) ゆいっと相談件数(高次脳機能障害) (延べ人数)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談(来所・電話・訪問)	94	86	86	104	75	90	83	86	113	83	102	84	1,086
上記内サロン	3	3	5	2	1	4	7	3	1	6	4	0	39

- ・高次脳機能障害関係機関連絡会 年2回 事務局機能としての活動
- ・高次脳機能障害関係機関連絡会運営委員会 年4回
- ・北多摩南部医療圏 高次脳機能障害者支援普及事業
- ・東京都総合高次脳機能障害研究会にて武蔵野市の時組として発表
- ・高齢、地区別ケース検討会にて高次脳機能障害について講演

ウ) 視覚障害専門相談件数

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
相談(来所・電話・訪問)	96	80	102	66	71	75	59	76	60	89	51	77	902
内点字教室	14	12	17	11	10	14	8	19	13	12	9	0	139
内地域生活学習会	6	0	9	0	0	6	0	0	0	5	0	0	26

- ・同行援護従事者研修(市)講師
- ・武蔵野市バリアフリー工事(点字ブロック等の敷設)への助言
- ・心のバリアフリー啓発事業への講師派遣

### ② 特定計画相談

- ・実績

障害別	契約者数 (延べ)	計画作成数 (延べ)	モリタツ実施数 (延べ)
視覚	49	50	109
高次脳 他	26	26	59
身体	16	14	40

## (3) 通所部門

①自立（機能）訓練（通所および訪問によるリハビリテーションサービス）

午後1時～4時 毎週月～金 1日の定員 10名

・実績 (延べ人数) 平均6.2/日

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
自立訓練	通所	106	107	113	126	131	120	137	118	130	108	105	119	1,420
	訪問	5	2	5	1	2	1	8	5	1	1	1	2	34
市単（通所）	10	4	6	7	4	5	6	0	0	0	0	0	42	
計	126	115	129	134	137	126	151	123	131	109	106	121	1,496	

・利用者の状況

(性別/年齢) 令和2年3月31日

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	1	1	4	7	3	0	16
女	0	0	3	3	4	1	0	11
計	0	1	4	7	11	4	0	27

(障害手帳の内容)

障害名	肢体障害	視覚障害	重複（視覚・精神）	重複（肢体・精神）	重複（肢体・知的）	精神	なし
人数	15	3	0	2	1	4	2

②生活介護（通所デイサービス）午前10時～午後4時 毎週月～金 1日の定員 10名

・実績 平均6.4人/日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
生活介護	116	106	129	133	127	126	149	139	137	124	127	124	1,537
市単独	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	116	106	129	133	127	126	149	139	137	124	127	124	1,537

・利用者の状況

令和2年3月31日

(性別/年齢)

年齢	～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～	計
男	0	0	3	2	4	2	0	9
女	0	0	2	0	2	0	0	4
計	0	0	5	2	6	2	0	15

(障害者手帳の内容)

障害名	肢体障害	視覚障害	重複（視覚・精神）	重複（肢体・精神）	重複（肢体・知的）	精神	なし
人数	9	2	0	2	1	1	0

令和元年度 指定障害福祉サービス事業「障害者地域生活支援ステーション わくらす武蔵野」  
(施設入所支援・生活介護・短期入所・行動援護・指定/特定相談事業) 事業報告

1 事業運営について

本事業所は平成30年3月に開所した。はじめは施設入所支援(入所)のご利用者36名を対象に、生活介護(日中活動)の事業から事業を開始し、その後月末から約3か月間かけて施設入所支援を段階的・計画的に進めていった。令和元年となり事業が本格的に始動し、5月には体験入所事業も始まり、のべ4名が3~4か月の期間、入所者として生活した(うち2名が体験入所後に生活介護利用者として利用継続した)。

生活介護(日中活動)は、定員50名のうち、施設入所支援利用者36名、通所のみの方5名の計41名となっている(体験入所者の利用をのぞく)。

5月からは「なごみの家(レスパイト事業/市単)」も当事業所に移転し、短期入所事業と合わせて段階的に事業を開始した(なごみの家の移転にはご利用者の混乱も予想されたため、オープンハウスも実施した)。

指定特定相談支援については、施設入所支援のご利用者および通所のみのご利用者を中心に計画相談を実施している(39ケース)。

行動援護事業については、上記の事業が安定したのちに、試行的に実施した。従事できる人員も限られたため、今年度は1ケースのみ実施した。

このほか、館内にある「オリーブホール」を地域の福祉団体等に貸し出す事業(貸館事業)を実施した。近隣にあるけやきコミセンがエレベーター設置工事のため一時閉館となっていたため、コミセンの関係者によくご利用いただいた。

職員については、当初想定よりも少ない人員で事業を開始せざるを得なかった。採用活動を継続し、年度途中で一定程度状況が改善した(4/1当初支援員30.9名、看護師2.6名→3/31時点支援員35.0名、看護師2.6名)。

年度の後半は、新型コロナウイルスの感染対策に追われた。施設入所支援では、わくらすと家庭の往来による感染リスクを下げるため、週末帰宅、家族面会等を見合わせていただいた(2月下旬から3月末にかけて)。同様に、なごみの家・短期入所の事業は緊急の場合を除き、利用の自粛をお願いした。令和元年度中、感染症は発生せずに推移している。

2 ご利用者の状況

(1) 施設入所支援

わくらす武蔵野は4つのユニットで構成されており、それぞれ次のようになっている。

2F	ユニット「 <small>そらとり</small> 空鳥」	10 部屋	主に自閉症(強度行動障害含む)の男性の方
	ユニット「 <small>とうげつ</small> 橙月」	8 部屋	主に自閉症(強度行動障害含む)の女性の方
1F	ユニット「 <small>ふじはな</small> 藤花」	10 部屋	主に最重度の知的障害(男女混合)のある方
	ユニット「 <small>むぎかぜ</small> 麦風」	8 部屋	主に重症心身障害(男女混合)のある方 ※医療的ケアが必要な方2名を含む

※この他、各ユニットに短期・なごみ用の居室が1部屋ずつ、体験入所用の居室が1部屋ずつある。

①. 利用者数（定員 40 名）

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	2	18	0	20
女性	0	16	0	16
合計	2	34	0	36

②. 年齢別利用者数（平均年齢 39.7 歳）

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	0	7	4	6	2	1	20
女性	0	1	2	11	2	0	16
合計	0	8	6	17	4	1	36

③. 障害支援区分別利用者数（平均 5.3）

	区分 4	区分 5	区分 6	合計
男性	2	5	13	20
女性	2	10	4	16
合計	4	15	17	36

(2) 体験入所

- ①. 利用者数 4 名（男性 4 名、女性 0 名）
- ②. 年齢別利用者数 40 歳代 1 名、30 歳代 0 名、20 歳代 3 名
- ③. 障害支援区分別利用者数 身障 1 級および愛の手帳 1 度 1 名、愛の手帳 2 度 3 名

(3) 生活介護のみ

- ①. 利用者数（定員 10 名） ※定員総数は入所 40 名を含めた 50 名

	前年度末	入所	退所	年度末
男性	0	5	0	5
女性	0	0	0	0
合計	0	5	0	5

②. 年齢別利用者数

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	合計
男性	1	1	1	2	0	0	5
女性	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	1	1	2	0	0	5

③. 障害支援区分別利用者数

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
男性	0	0	0	0	2	3	5

女性	0	0	0	0	0	0	0
合計	0	0	0	0	2	3	5

(4) なごみの家・短期入所

①なごみの家利用者数 114名(うち、幼児11名、学齡児童41名、成人62名)

②短期入所利用者数 45名(うち、市内42名、市外3名)

(5) 計画相談

	重心	知的	合計
計画相談	5	34	39

3 主な事業実績とサービス・支援内容

(1) 事業実績

上半期		4月	5月	6月	7月	8月	9月
施設入所支援		134日	394日	890日	1078日	880日	1025日
体験入所		0日	12日	30日	62日	62日	73日
生活介護		374日	485日	732日	860日	805日	837日
なごみ	タイム 件数	58件	40件	48件	57件	45件	36件
	泊数	10泊	18泊	15泊	3泊	3泊	3泊
	総時間	441h	556.75h	522.25h	268h	301.25h	223.75
短期	泊数	—	—	—	27泊	28泊	15泊
	総時間	—	—	—	557h	499h	291h

下半期		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
施設入所支援		1070日	1052日	1032日	945日	995日	1080日	10,575日
体験入所		76日	59日	28日	27日	29日	0日	458日
生活介護		894日	886日	896日	885日	819日	889日	9362日
なごみ	タイム 件数	45件	29件	44件	42件	38件	14件	496件
	泊数	2泊	1泊	3泊	1泊	2泊	0泊	61泊
	総時間	230.25h	144h	231h	184.75h	212.25	41.25h	3356.5h
短期	泊数	22泊	32泊	42泊	46泊	44泊	37泊	293泊
	総時間	391.25h	580.75h	797.75h	821.75h	790h	851.75h	5580.25h

(2) サービス・支援内容

①施設入所支援

食事の提供	栄養士による献立、調理業者による3食の調理、温冷配膳車による配膳のほか、ご利用者の摂食機能に合わせた特別食、食事の介助、体重等に配慮したカロリー調整など
-------	--

健康管理	看護師・支援員による日常的なバイタルチェック、口腔ケア、服薬管理、体重管理、排せつ管理、嘱託医による健康管理、訪問歯科、定期検診（年3回）、歯科検診、インフルエンザ予防接種など
その他の生活支援	入浴支援、就床・起床支援、排せつ介助、夜間帯の巡回、更衣・整容支援など

## ②生活介護（日中活動）

今年度は2グループに分かれて活動した。主な活動は次の通り

運動・健康	TDR（講師による、体操・ダンス・リラックス）、ウォーキング、公園ジョギング、リハビリ（PT）
創作・表現	裂き織、さをり織、絵画（講師）
手作業	自立課題、鉢ポッターづくり、
リラックス趣味	読み聞かせ、スヌーズレン、コンサート、カラオケ、シネマ、わくらすカフェ
地域活動 社会参加	ポスティング、地域清掃、地域イベント（マルシェなどへの参加）

このほか、通所のみの方には、必要に応じて送迎サービスを行っている。

## ③短期入所・なごみの家

予約	1次予約（メール、FAX等による1.5か月前の予約）と2次予約（従来通りの30日前の予約）による予約管理
送迎	基本的に市内を対象にした車両送迎
食事の提供	施設入所支援と同じ献立、利用者の摂食機能に合わせた特別食など
その他の生活支援	利用の時間に応じて入浴支援、就床支援など

## 4 その他の事業

### (1) 貸館事業（オリーブホール（BIF）の貸し出し）

6月から事業を開始し、今年度は合計17件の利用があった。このほかに、5丁目町会の歳末イベント「餅つき」の会場として、当館の玄関前やオリーブホールを貸し出したほか、大野田福祉の会と法人の共催イベントとして映画のプレ上映会（いろとりどりの親子）にも貸し出した。

### (2) 見学者

合計で36件の見学（延べ263名の見学者）があった。

### (3) 防災（避難）訓練

机上訓練（職員向け）	1回
自衛消防訓練	2回
防犯相談（武蔵野警察署）	1回

#### (4) 家族会等

施設入所支援のご利用者の家族によって、家族会が発足した。家族会からさまざまな形で運営のサポートをいただいている。また、わくらすからは「家族連絡会」をのべ9回開催した。(全体会3回、ユニット別4回、日中活動グループ別2回)。

#### (5) ボランティア

毎週活動に来てくださるボランティアの方が2名、不定期に読み聞かせに来てくださるボランティアの他、家族会による清掃ボランティアなどにご協力いただいている。

#### (6) 地域イベント

ご利用者の社会参加、また地域への啓発活動を目的として、地域のイベントに参加した。(SDG'Sアクションみたかエコマルシェ(11/10)、フェアトレードフォーラムむさしの2020(2/16))。

#### (7) 人材育成・職員研修等

##### ①OJT-one(新卒スタッフを対象にした1年間のOJTプログラム)

対象者(12名)が毎月OJTリーダーと日々の業務について面談し、業務の習熟度の確認や業務上の相談などをしていた。

##### ②臨床心理士による集合研修、ケースカンファレンス、コンサルテーション

集合研修として「感覚」「愛着」「身体・認知の発達」「自閉症」「行動障害」をテーマに各2回実施した。また月に1ケース、ご利用者のケースカンファレンスを実施した。集合研修の知見を実際の臨床場面で活かせるような循環を狙った。またリーダー層の職員を対象に年に3回のコンサルテーションを実施し、自身の支援者としての成長につながる面談を実施した。

##### ③その他の内部研修

今年度は新卒のスタッフも多かったため、障害のある方の支援の基礎的な内容の集合研修を多く実施した。「家族の話を聴く(5/23)」「PT研修(6/4)」「行動障害研修(6/12)」この他、小グループに分かれて「摂食介助研修」「嘔吐物処理研修」などを実施した。

##### ④外部研修(OFF-JT/加算資格含む)、施設見学等

加算資格研修として強度行動障害支援者養成研修を積極的に受講した(14名のべ34回)。この他、他事業所研修(2名6日間/シャロームみなみ風)、施設見学(8/28/そよかぜ)、口腔ケア研修(12/5)、災害時研修(2/11)などに職員を派遣した。

#### 5 苦情・事故件数

苦情：ご家族1件 ・ 近隣2件

事故：53件



# 令和元年度 武蔵野市桜堤ケアハウス(軽費老人ホーム ケアハウス) 事業報告

武蔵野市桜堤ケアハウスの1年間の利用者動向は退所者が5人、新規入居者は7人となった。

ここ2年で男性入居者も11名となり男女比率もほぼ同率となった。また60代入居者も1名から3名と世代交代も進んできている。以前から入居されている方々には、軽度知的障害、理解力・記憶力等の低下などの精神・認知機能に障害がある方もいる一方、ここ2年ほど、周囲との協調的な関係が保てない方が増え、より支援力が求められている。また、長期入居されている方々においては、高齢化・虚弱化により介護等が必要な状況も増えている。これら二極化かつ混在している入居者の方々の生活の中で、入居者同士が良好な人間関係を築くことも難しくなっている。

そのため、その人らしさを大切に、良好な関係を築きながら地域での生活を継続できるよう、個々の心身の状態に合わせた支援を講じている。

## 1. サービス提供形態と利用実績

サービス種類：軽費老人ホーム(ケアハウス)		延べ利用者数	利用率
定員	30名(個室26室・2人部屋2室)	8,845名	80.6%

## 2. ケアハウス利用者の状況について

### (1) 入退所状況

(人)

	令和元年度当初	退所	入所	令和元年度末
男性	7	1	5	11
女性	16	4	2	14
合計	23	5	7	25

\*退所者5人の転居先等は他施設への転居2名、入院1名、死亡1名

### (2) 年齢構成等

<平均年齢>

(歳)

<年齢構成>

(令和2年3月31日現在・人)

	令和元年度当初	令和元年度末
男性	79.4	80.5
女性	88.5	86.3
平均年齢	85.7	83.7

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
男性	2	3	4	2
女性	1	2	4	7
合計	3	5	8	9

### (3) 要介護認定状況

※総合事業対象者は、令和元年度当初1名、令和元年度末1名

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
令和元年度当初	1	2	4	3	2	0	0	1.53
令和元年度末	1	0	8	2	3	0	0	1.53

### (4) 外部サービス利用状況

\*重複あり

(令和2年3月31日現在・人)

	ホームヘルプサービス	通所系サービス	訪問看護	その他
男性	4	1	1	2

女性	5	4	1	2
合計	9	5	2	4

### 3. その他の実績

#### (1) ボランティア・見学、苦情等

ボランティア活動延人数：41名	見学者数(一般見学)：6名	苦情報告：0件	事故報告：2件
-----------------	---------------	---------	---------

#### (2) 多世代交流としてスペース提供(乳幼児・児童等と入居者との交流機会)

4階・ロビーで毎週水曜日の午後に、隣接する小学校の生徒を対象にけん玉クラブの練習場所として無償貸出し、また近隣の小規模保育室・保育ママさんの乳幼児たちの散歩コースとして開放し定期的に交流を図っている。この他に30年度から3階・和室を、月曜から金曜日の平日(祝祭日除く)の午後に、市内の小・中学生を対象に有償学習教室の場所として無償貸出している。

今年度は、どんぐり保育室の他にカルガモ第二保育室との交流も実施した。また、ここ数年、恒例となっている、けん玉クラブに参加している子ども達や、桜野小学校の茶道クラブの生徒さんとの交流の機会も提供した。

### 4. 食事提供、健康管理等

#### (1) 食事提供状況

利用者の食事形状では下表のような状況がみられている。

常食	22	粥・おかず普通	3	(令和2年3月31日現在・25名)
----	----	---------	---	-------------------

日々の健康状態を食事摂取状況からも把握ができるため、調理部門職員と生活相談員とが連携する。

#### (2) 健康管理等の状況

入居者自身の病識の低さや服薬管理が難しい入居者へは、健康相談・お薬相談の利用を勧めた。また、安心・安全な日常生活を送って頂けるよう「熱中症や風邪の予防」など、お役立ち講座を開催した。また、歌声サークルや、さわやか健康クラブなど、専門の講師を招いての機会を設け、毎月定期開催し、心身機能向上や日常生活動作の向上を目的とし、総合的に取り組んだ。

### 5. 相談支援等

入居者の高齢化、虚弱化、さらに、理解および記憶の機能低下等により、集団生活上のルール、マナーなどが守れなくなってきた方が増えており、入所者間でのトラブル、人間関係上の精神的な抱え込みも多くなってきている。そのため、一人ひとりの状況に合わせた相談支援や関係機関との調整を図り、また、家族(保証人)とも連絡を取り合いながら対応している。

保証人自体が高齢化しており、亡くなられた方や疎遠となられているケースも増えてきており、現状の経済面に関する支援や入院時の身上監護、次の生活の場に向けて、適切な関係機関と連携した支援の必要度が増してきている。

この他に今年度は新たに入居者全員に対して、入居者の日常生活における要望などを伺い、ケアハウスで「安心・安全な生活」が送れるよう個別支援計画書を作成した。

健康管理・疾病等に関すること(体調管理、通院介助、医療機関との連絡調整など)	791件
日常生活全般・精神的なケア(食生活・住環境等の生活面、人間関係調整等)	1203件
介護保険等の制度利用に関すること(制度の紹介や申請・手続き、関係機関への繋ぎ)	397件

## 6. 各種事業実績

### (1) 年間行事の実施状況

(人)

行事名	実施日	行事内容	参加人数
学生寮新入寮生歓迎会	4/21	学生寮信陽舎新入生歓迎会	4
入居者個別面談	5月上旬から6月下旬にかけて実施	入居者と職員の個別相談	21
お役立ち講座①	6/4	季節を楽しむ「梅ジュースづくり」	4
七夕飾りづくり	6/26	桜野地域社協と共同で七夕飾りづくり(小中学生参加)	約30名
夏の夕食会	7/25	学生寮生と親睦を兼ねた食事会とコンサート	21
ケアハウスレストラン①	8/22	夕食時に、お好きなセット料理を飲食、歓談	25
お役立ち講座②	9/2	熱中症予防について<講師：大塚製薬 営業課長>	15
敬老の会	9/15	式典とコンサート(近隣の小学校の生徒も参加協力して開催)	34
ケアハウスレストラン②	10/17	夕食時に、フルコース料理を飲食、歓談	24
西部コミセン文化祭	10/26. 27	入居者作品を展示(手芸・書道・俳句・写真等)	—
介護と福祉の地域広場	11/3	地域住民向けの介護・福祉の情報提供・イベント等開催	—
秋の外出	11/8	(見学先)小平市平櫛田中彫刻美術館	3
	11/15	(昼食場所)割烹 一龍	3
	11/21		3
学生寮・寮祭	11/23	学生寮信陽舎の開寮祭	5
お役立ち講座③		風邪に負けない健康づくり<講師：大塚製薬 営業課長>	14
年忘れお楽しみ会	12/18	学生寮生、近隣小学校生徒と親睦を兼ねた年忘れ会	44
初詣	1/8	杵築大社へ参拝	6
ミニ新年会	1/10	おしるこを食べながら入居者同士の交流	17
新年お楽しみ会	1/22	小学生のけん玉クラブとのけん玉大会、交流会	10
桜野小・茶話会	1/27	桜野小茶道部生徒と茶話会	9
節分(豆まき)	2/3	1階食堂での豆まき	16
学生寮卒業生祝会	2/22	学生寮信陽舎4年生の卒業祝い会	6
季節の湯	5/4. 12/20	菖蒲湯、ゆず湯	—

### (2) 趣味活動、他の実施状況

活動名	活動回数(実施月)	活動概要、他
手芸	週1回	ボランティア講師による編物、刺繍等の教室
書道	月2回	ボランティア講師による書道教室
さわやか健康くらぶ	月1回	体操のインストラクターによる健康体操
歌声サークル	月2回	音楽講師による音楽活動、歌の会。
手作りの会	月1回	地域のボランティアによる小物づくり教室
入居者懇談会	年6回(奇数月実施)	入居者と職員による懇談会(行事等の案内、利用上のルール等確認)
避難訓練	年6回 (5・6・8・10・12・2月)+10月	学生寮生と合同の夜間、日中・夜間想定防災訓練、 大地震想定BCP 図上訓練 10/27 武蔵野市総合防災訓練 福祉避難所開設訓練

健康相談	週1回	配置医師による健康面、持病等に関する相談
お薬の相談日	年10回	薬剤師による持薬や市販薬等の理解、健康についての相談

## 7. 入居者の募集・選考、入居の問い合わせ

### (1) 募集・選考

平成31年4月に二人部屋1部屋と一人部屋5部屋の募集を行った。抽選の結果7名(二人居室1組合む)が入居予定となったが、二人居室該当の方は辞退された。その後、空き室が出たため、補欠の方1名が入居対象となり、7月から10月に、一人部屋へ6名の方が入居した。

令和1年8月に二人部屋1部屋と一人部屋1部屋の募集を行った。二人部屋への応募はなく、一人部屋の該当者は1名だったため、抽選は行わず11月に入居した。

令和2年1月に二人部屋1部屋の募集を行ったが、応募者はなかった。

\*年間通して、居宅介護支援事業所等への入居募集の紹介などを行いながら、3回の入居募集を積極的に実施した。

### (2) 入居に関する問い合わせ状況

居室形態	市内	市外	合計
一人部屋	36件	6件	42件
二人部屋	4件	0件	4件

## 8. その他

### ・大規模修繕工事について

令和1年度は1月中旬から3月末にかけて大規模修繕工事(外壁シーリング工事・雨漏り箇所等修繕工事)を実施した。工事期間中、2階中庭側のガラスひび割れが発見され追加工事を実施した。また年間を通じて隣接した介護老人介護施設の建設工事による騒音・振動のため入居者の心的ストレスも見られたため、生活相談員がこまめに居室訪問して入居者の体調の聞き取りなどを行い、日常生活に大きな支障が及ばないように努めた。

### ・新型コロナウイルス感染症に対する対応について

令和2年1月末から東京都並びに武蔵野市などからの新型コロナウイルス感染症情報を踏まえて、コロナウイルス感染症への対応を準備した。ケアハウス入居者・デイサービス利用者・来館者などに対してお知らせ文を通じての注意喚起や具体的な予防策(マスク着用・手洗い・手指消毒等)を周知徹底し、感染防止に努めた。

またケアハウスでは不要・不急の外出自粛、行事の中止に伴い、入居者の心身的ストレス軽減及び生活不活発化(特に下肢筋力の低下)防止を目的に、生活相談員による配茶サービス、居室における体操プログラムの紹介、ケアハウス敷地内での園芸活動支援にも取り組んだ。

## 令和元年度 武蔵野市桜堤ケアハウスデイサービスセンター事業報告

武蔵野市桜堤ケアハウスデイサービスセンターは「桜堤地区における福祉サービス再編検討委員会」の結果を踏まえて、令和2年3月31日をもって桜堤ケアハウスデイサービスセンターを閉所する事となった。令和1年7月頃まで多くの利用者が登録し、80%を超える稼働率で運営していたが、8月より担当の居宅介護支援事業所と少しずつ利用者を他のデイサービスセンターに移行する調整を行った。利用者の他事業所への移行により生活支援サービスを利用される方も少なくなっていたが、できる限りサービス内容・質を落とさぬよう努めた。

また独居の認知症を有する利用者に対しては、送迎によるお迎え時を利用して、居宅内の環境整備や安全点検等を一緒に行うなど安全配慮に努め、安心・安全な居宅生活が送れるよう支援した。昨年に引き続きフロア内の環境には常に気を配り、整理整頓を行うなど明るく落ち着いて過ごせるようフロアの環境改善を図った。

食事サービス関連では、配食サービス(市受託事業)は利用登録者が10名前後と減少し、延べ配食数713食で前年度に比べて約744食減少した。UR桜堤団地自治会と共同で運営している「よりあい食堂かよう」(毎週火曜日に昼食提供)は毎回25名前後の参加があり、利用者からの声で「歌の会(介護予防)」と「体操(介護予防)」を月2回ずつ、食事前に開催し盛況となっている。

### 1. デイサービス提供形態と利用実績

サービス種類：通所介護・介護予防通所介護<通常規模型事業所>		延べ利用者数	利用率
サービス提供 曜日・時間・定員	月～金曜日◆9:00～17:00 20人 土曜日 ◆9:00～16:30 15人	3,048人	59.2%

### 2. デイサービス利用者状況

#### (1) 要介護認定等結果

要介護者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計(人)	平均要介護度
延べ人数	732	772	828	344	356	3032	2.61

要支援者	要支援2	合計(人)
延べ人数		

事業対象者	事業対象者	合計(人)
延べ人数	16	16

#### (2) 年齢構成

(令和2年3月31日現在・人)

	1年度当初	1年度末
男性	87.1	88.0
女性	87.3	88.3
平均年齢	87.2	88.2

	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
男性	0	0	0	0	0
女性	0	0	1	3	4
合計	0	0	1	3	4

### 3. 食事(配食)サービス利用実績

配食登録者(月平均)：約6,6名	1日配食数：約3食	延べ配食数：713食(お節含む)
------------------	-----------	------------------

### 4. その他の実績

#### (1) ボランティア関係

ボランティア活動延人数(合計 255名)	
デイサービスフロアボランティア：255名	配食ボランティア：38名

(2) 実習生等の受け入れについて

教員免許介護等体験実習生：13名	看護学生等実習生：1名	社会福祉士資格取得実習生：1名
------------------	-------------	-----------------

(3) その他

苦情件数：0件	事故件数：0件
---------	---------

5. プログラム提供状況

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	脳トレ、体操 入浴	脳トレ、体操 入浴	脳トレ、体操	脳トレ、体操 入浴	脳トレ、体操 入浴	脳トレ、体操
午後	絵手紙 音楽クラブ 手芸	囲碁・将棋・ 麻雀、手芸 歌の会 個別機能訓練	陶芸 手芸 歌の会 ハンドドレナ ージュ	創作活動 (音楽鑑賞) 麻雀 四季の会	手芸 書道 音楽クラブ 個別機能訓練	レクリエーション 音楽クラブ

\*お花見ドライブ、グループ外食などの外出等の活動を随時行った。

\*理容技術者ボランティアによる散髪・整髪(月2回)を実施。

6. 利用者の健康管理等

日常的には健康チェック(血圧のバイタルチェック等)を中心に取り組んでいるが、医療的ケアの必要な方には、看護職員による処置等を行っている。平均要介護度が軽くなったこともあり、医療的ケアの実績は減少している。

経管栄養(胃ろう)	0	吸引	0	年度間の延べ処置数 件
経管栄養(鼻腔)	0	気管切開	0	
人工肛門	0	MRSA	0	
バルーンカテーテル留置	0	透析	0	
インシュリン注射	0	尿ろう	0	
在宅酸素	46	自己導尿	0	
救急車搬送	1件			
歯科健診	2回実施(武蔵野市歯科医師会からの歯科医師と歯科衛生士の協力のもと実施) 1回実施(ボランティアお口の介護)			
口腔ケア教室	2回実施(武蔵野市歯科医師会からの歯科医師と歯科衛生士の協力のもと実施)			
耳鼻科健診	0回実施			

7. 主な行事、活動報告実績

行事・活動名	期 日	内 容
お花見ドライブ	4/3~9	武蔵野市内や近隣の団地内等をドライブしてまわる
オープンコンサート	6/3・12/25	地域住民を交えての公開コンサート
長寿を祝う会	9/18・19	コンサートを楽しみ、祝膳を味わう
介護と福祉の地域広場	11/3	地域住民向けの介護・福祉の情報提供イベントを開催。利用者作品も展示紹介
初詣	1/7~11	三鷹井口院へ参拝
新年会	1/15・16	獅子舞や二人羽織を楽しみ、祝膳を味わう

桜堤保育園児との交流	4/26、6/20、7/3、9/6、10/25、11/14、 12/18、1/16	園児の歌と踊りによる交流

## 8. 食事サービス関連の状況

### (1) デイサービス利用者への食事提供形状等の配慮

利用者の食事摂取状況も多様化し、登録者約50人の内、下表の食事形状の工夫や配慮を行っている。

ご飯・おかず一口大	1	軟飯・おかず刻み	1	軟飯・おかず一口大	1	(合計9人)
軟飯・おかず普通	1	ご飯・おかず極刻み	1	粥・おかず極刻み	2	
粥・おかずワカ刻み	0	粥・おかず刻み	2	R2.3.31現在〈人〉		

### (2) 配食サービス(市受託事業)

配食サービス利用者への食事提供形状等の配慮

軟飯・おかず普通	0	R2.3.31現在〈人〉
----------	---	--------------

### (3) UR桜堤団地自治会と共同で「よりあい食堂かよう(コミュニティ食堂) 運営(会計、デイサービス)

平成26年9月から開始したコミュニティ食堂は、年末年始・祝日を除く毎週火曜日・正午から午後2時に営業し、今年度は、延べ1,003人が参加、1回あたり平均で23人が利用した。利用者のほとんどが、高齢の単身世帯・夫婦のみ世帯で日々、孤食状態の中、週に1回はここを訪れておしゃべりをしながら食事をされて過ごしている。当日には、3人の住民ボランティアがフロアで配茶、配下膳、お話し相手として協力し、また、夏・冬・春休みには近隣の桜野小学校の児童が体験ボランティアとして参加し、多世代交流の場にもなっている。



今年度は在宅介護支援センター職員(生活支援コーディネーター)が主に受付・会計・相談コーナーを担当しており、公的制度や住まい、医療・健康面の相談の機会にもなり、必要な方にはサービスにつなげている。利用者の声に応じて、隔週で「体操(介護予防)」「歌の会(介護予防)」を開催し、毎回15名以上の参加があり好評を得ている。

また運営開始から5年弱を迎えており、参加者の構成も3分の1が新しい利用者となっている。

## 9. その他の実績

### (1) 家族介護支援事業(市受託事業)の実施状況

講義内容：介護予防「歩行能力を維持・改善し、健康寿命の延伸を図る」

～人生の最後まで自分の足で歩くためのコツ～

6/15(土)	桜堤コミュニティーセンター	講師：山形哲行 (認定理学療法士・専門学校社会医学技術学院講師)
7/13(土)	武蔵野ふるさと歴史館 [西交会と共同開催]	
9/7(土)	西部コミュニティーセンター [西部コミュニティーセンターと桜野地域社協で共同開催]	
6/3(月) 12/25(水)	「家族介護者もともに生演奏を楽しむコンサート」 ～デイサービス・オープンコンサート～	[参加者合計] 41名
		[参加者合計] 53名

\*各地域への出前講座も定着し、今年度も地元の住民団体等の協力・共同開催で実施した。

## 令和元年度 武蔵野市桜堤ケアハウス在宅介護・地域包括支援センター 事業報告

武蔵野市の西部地域(桜堤・境・関前)の高齢者総合相談窓口として、地域にお住まいの高齢者やその家族に対して、医療・介護・福祉サービスの情報提供・利用調整や、権利擁護に関する支援など、24時間 365日絶え間なく行ってきた(電話受付については、夜間帯はゆとりえへ転送)。また、基幹型地域包括支援センターとの協力体制を深め、地域包括ケアシステムの実現・推進に向けて取り組んできた。あわせて、地域で活動する民間ケアマネジャーに対して、相談・支援等のサポートも充実させてきた。

地域においては、

- 関前地区では、地域の防災会議に積極的に参加し、防災についての意識を高めるお手伝いを行うことができた。また、地域認知症講座や認知症サポーター養成講座を開催し、認知症に関する普及啓発に努めた。
- 境地区では、昨年に引き続きエリア別地域ケア会議を開催した。地域で活躍する人たち同士で多世代のつながりをつくるためにはどう取り組んでいけばいいのか、考えていくきっかけになった。
- 桜堤地区では、サンヴァリエ桜堤(以下、UR)の生活支援アドバイザーと定期的に情報交換を重ねることで、URにお住まいの高齢者の事例を取り上げた個別地域ケア会議を開催することができ、その会議を通して地域住民とのつながりの大切さを改めて実感し、次年度のエリア別地域ケア会議開催への方向付けができた。

また、当圏域においては、市内最大数9カ所のいきいきサロン(令和1年度に2カ所増)が設置されており、生活支援コーディネーターがサロン運営の維持・存続に努め、武蔵野市民社協とも情報交換を行い、地域とのネットワークづくりにも力を注いだ。

### 1. 在宅介護支援センター(市受託事業)の報告

#### (1) 相談実績

【相談形態内訳】

形態	件数
電話	1484
来所	230
訪問	1517
支援会議	92
その他	81
合計	3404

【訪問地区内訳】

地区	延人数
桜堤	547
境	588
関前	382
合計	1517

【援助内容別の相談割合…複数相談あり】

内容	%
介護保険に関する相談	32.7
認知症・精神に関する相談	9.9
保健・医療に関する相談	13.6
ホームヘルプサービス	4.9
デイサービス	4.6
福祉用具	6.0
住宅改善・住まい	3.4

内容	%
認知症見守りヘルパー	0.3
ショートステイ	1.8
家庭的事項	3.2
年金等経済的事項	1.5
権利擁護・虐待等	2.9
リハビリテーション	3.8
介護保険に関する苦情	0.4



食事サービス	1.1
高齢者福祉施設(様々)他	3.9

その他(安心コール・安否確認等)	7.0
(合計)	100

## 2. 地域包括支援センターブランチ(市受託事業)の報告

(1) 虐待防止(虐待対応件数) : 9件 \*重複あり

身体的: 8件	経済的: 0件	心理的: 1件	性的: 0件	介護放棄: 0件
---------	---------	---------	--------	----------

(2) 権利擁護等対応件数 : 151件 \*重複あり

成年後見制度関連: 33件	消費者被害: 4件	困難事例: 114件
---------------	-----------	------------

(3) 地域連携等件数 : 378件

地域連携会議: 37件	介護予防啓発: 8件	他機関との連携: 333件
-------------	------------	---------------

(4) ケアマネ支援件数 : 422件

個別の相談: 228件	同行訪問: 142件	担当者会議へ出席: 52件
-------------	------------	---------------

## 3. 居宅介護支援事業所実績状況

①年間認定調査件数: 542件/新規同行調査: 96件

②ケアプラン作成総数: 101件

介護給付ケアプラン作成数: 94件	新予防給付ケアプラン作成数: 7件
-------------------	-------------------

## 4. その他

苦情件数: 0件	事故件数: 0件
----------	----------

## 5. 特徴だった活動

①日々の業務の中で、認定調査・ケアマネジメント等の訪問、地域社協等への会議参加を通じて、地域の実情や課題把握に努めて、全職員間で情報の共有化を図った。

②地域の集合住宅(団地等)、いきいきサロン、テンミリオンハウス、コミュニティセンター、老人会等に出向き、在宅介護・地域包括支援センターの総合相談窓口としての機能や役割、介護保険制度の利用や介護施設の種類・内容の説明、認知症の理解への取り組み、市役所で作成されたエンディングノートの説明などを実施した。

③緊急・短期における福祉用具の貸し出しを行った。(年間 37件)

④引き続き日祝祭日の窓口相談にも取り組み、365日、地域における高齢者総合相談窓口としての役割を積極的に行った。

⑤家族介護支援事業(家族介護者教室「さくらちゃんの介護教室」)においては、各種講座と介護者、介護経験者、これから介護をする見込みのある方など、集いの場としてサロンを下記のとおり開催した。生活圏域内の各所において実施し、地域住民が参加しやすい体制を整え、内容も多岐にわたるものにしてきた。

〔家族介護者教室「さくらちゃんの介護教室」〕

実施日	実施場所	講座内容	参加人数
4/26	桜堤ケアハウス	ミニ講座「誰もが気になるその悩み～排泄編」、参加者同士の懇談	22名
5/23	桜堤ケアハウス	ミニ講座「誰もが気になるその悩み～飲み込み・嚥下編」、参加者同士の懇談	21名
6/21	桜堤ケアハウス	ミニ講座「誰もが気になるその悩み～ロコモ予防について」	15名

		て」、参加者同士の懇談	
9/18	施設見学	看護小規模多機能 たんぼぼの家 見学	12名
10/23	施設見学	特別養護老人ホーム ゆとりえ 見学	18名
12/11	桜堤ケアハウス	ミニ講座「転倒予防について」、介護者同士の懇談	12名
3/27	桜堤ケアハウス	ミニ講座「おいじたく講座」、介護者同士の懇談	新型コロナウイルスの影響で中止

⑥サービス事業者振興事業(西部第一地区別ケース検討会・地域ケア会議)を実施

4月	地区別ケース検討会 4/16「ケース検討会年間計画作成・打ち合わせ」(24名)	10月	地区別ケース検討会 10/15 事例検討会 「意欲低下がある認知症高齢者の支援について」(21名)
5月	地区別ケース検討会全体会 5/21 ステップアップ研修 「認知症初期集中支援事業について」(26名)	11月	地区別ケース検討会 11/19 事例検討会 「老々要介護夫婦の支援について」(21名)
6月	地区別ケース検討会 6/28 エリア別地域ケア会議開催(境地区)(34名)	12月	地区別ケース検討会 12/17 事例検討会 「認知症がある独居高齢者の支援について」(16名)
7月	地区別ケース検討会 7/16 事例検討会 「看護小規模多機能型居宅介護を活用した高齢夫婦の支援について」(26名)	1月	地区別ケース検討会 1/23 講座 「ケアマネジャーに知っておいて欲しい薬の知識」 講師：さくら野薬局/高橋洋平氏(20名) ・1/30 個別地域ケア会議(桜堤地区)(11名)
8月	休会	2月	地区別ケース検討会 2/18 講座「チームで支える高次脳機能障害者の生活～エピソードから考える高次脳機能障害～講師：高次脳機能障害相談室 ゆいっと/田中治子氏(22名)
9月	地区別ケース検討会 9/17 事例検討会 「精神疾患が疑われる独居高齢者の支援」(24名) 9/4 個別地域ケア会議(関前地区)(12名)	3月	新型コロナウイルスの影響で中止

⑦認知症サポーター養成講座、ステップアップ講座、地域認知症講座を実施。

令和1年度は、一般市民、大学生などへ講座を実施し、認知症や高齢者への理解を深めた。

実施日	実施場所	参加団体	参加人数
-----	------	------	------

6/13	市役所	「やまびこの会」家族	23名	参加者合計 104名
7/10	亜細亜大学	亜細亜大学学生	32名	
7/23	第一交通武蔵野株式会社	第一交通武蔵野職員	15名	
10/15		ステップアップ講座	14名	
2/20	武蔵野プレイス	一般市民	20名	

⑧認知症相談事業の実績

4/17	7/17	10/16	1/22
3名	2名	3名	2名

⑨民生児童委員との定例会を実施。

開催日	協議内容	参加者数
7/18	① 「虐待対応マニュアル」説明 ② 高齢者の見守りサービス全般（介護保険制度） ③ 個別ケースや地域の情報交換	29名
2/26	① 地域で暮らす高齢者の見守り～自助・互助の視点から ② 個別ケースや地域の情報交換	28名

6. 地域行事への参加

地域貢献と当施設を知ってもらうために、桜堤ケアハウス全体で地域イベントに協力した。

開催日	行事名	参加者数
4/6	桜堤桜まつり	多数参加
6/15	西部コミセンまつり	多数参加
9/1	桜堤子どもまつり	多数参加
11/3	介護と福祉の地域広場	多数参加
11/9, 10	関前コミセンまつり	多数参加
12/21	境クリスマス会	多数参加

7. 地域に向けた各種講座の説明会（啓発活動）

地域住民(老人クラブ)、サロン（いきいきサロン）、テンミリオンハウス、地域社協での出張講座を開催し、介護保険制度、市単独事業等についての説明会等を実施し、地域の会合にも積極的に参加した。

	地域連携に係る会議	介護予防普及啓発
4月	13日 西部コミュニティ協議会住民総会 (約60名) 24日 境福祉の会 総会 (約60名) 25日 市民社協との情報交換会 (3名)	
5月	12日 桜野防災ネット (40名) 17日 桜野地区社協 総会 (約35名) 22日 関前福祉の会 (29名) 24日 関前防災会 (20名)	

6月	5日 境地区運営委員会 (20名) 14日 かよう食堂情報交換会 (12名) 21日 関前防災会議 (約10名) 28日 エリア別地域ケア会議 ( 境地区 ) (34名)	
7月	18日 民生委員定例会 (29名) 22日 どっこいしょ運営推進会議 (8名)	
8月	16日 社協との情報交換会 (3名)	29日 老人会「さくら会」エンディング出前講座 (34名)
9月	2日 URとの打ち合わせ (3名) 4日 個別地域ケア会議 (関前地区) (13名) 23日 第7回合同ネットワーク会議 (境地区) (約30名) 25日 関前福祉の会 (25名) 26日 関前防災会 (20名)	
10月	18日 桜野防災ネットワーク会議 (約10名) 23日 社協との情報交換会 (3名)	24日 サロン「五丁目クラブ」エンディング出前講座 (22名)
11月	6日 境福祉の会 運営委員会 (16名) 14日 いきいきサロン事業説明会 (約20名) 20日 光風荘運営推進会議 (9名) 21日 マザアスだんらん武蔵境運営 推進会議 (7名) 22日 桜野防災ネットワーク会議 (約20名)	1日 普及啓発部会会議参加 (17名) 23日 境4丁目交流会 エンディング出前講座 (22名)
12月	2日 URとの情報交換会 (2名) 13日 桜野地区社協運営委員会 (40名) 21日 境地区クリスマス会 (約100名) 25日 社協との情報交換会 (3名)	4日 境5丁目交流会 エンディング出前講座 (13名)
1月	25日 災害時要援護者支援者会議 (桜野地域社協) (25名) 30日 個別地域ケア会議 (12名)	28日 地域認知症講座 (関前コミセン) (34名)
2月	10日 社協との情報交換会 (3名) 14日 どっこいしょ運営推進会議 (7名) 19日 桜野防災ネットワーク会議 (約20名) 25日 関前防災会 (11名) 26日 民生委員定例会 (28名)	8日 エンディング支援講座(さくらサロン) (約50名) 20日 一般向け認知症サポーター養成講座 (20名)
3月	新型コロナウイルスの影響で軒並み中止	

8. いきいきサロン事業の報告

サロン名	サロン開催時間	サロン事業内容	開設年度
iki なまちかど 保健室	毎週 月曜日 10:00~15:00	OT による体操、チェアヨガ、ハンドベル、ぬり絵、手芸	H28 年度
寄り合い食堂 かよう	毎週 火曜日 11:00~14:00	理学療法士による体操、音楽療法士による歌、ケアハウス職員による学習会、食事会、 <u>園児との交流</u>	H28 年度
マルセサロン	毎週 水曜日 13:30~15:30	体操、ぬり絵、朗読、カラオケ、交流会	H29 年度
五丁目クラブ	毎週 木曜日 13:00~15:00	体操、カラオケ、交流会	H28 年度
どんぐり広場	毎週 金曜日 14:00~16:00	体操、脳トレ、健康相談	H30 年度
ルンルンサロン	毎週 土曜日 14:00~16:00	ペーパークラフト、折り紙、囲碁・将棋、麻雀	H28 年度
なのはなサロン	毎週 日曜日 10:30~12:30	体操、ちぎり絵、ボッチャ、食事会	H28 年度
ルンルンサロン	毎週 土曜日 14:00~16:00	ペーパークラフト、折り紙、囲碁・将棋、麻雀	H28 年度
なのはなサロン	毎週 日曜日 10:30~12:30	体操、ちぎり絵、ボッチャ、食事会	H28 年度
サロン式番館	毎週 水曜日 14:00~16:00	合唱、柔道整復師による体操、ふまねっと、ボッチャ、輪投げ、スカットボール、テーブルゲーム	R1 年度
いこい	毎週 水曜日 13:00~15:00	体操、カラオケ、茶話会	R1 年度

【高齢者支援部門全体研修会及び桜堤ケアハウス職員全体研修会の実績】

開催日	研修内容	参加者数
8/27(火)	「利用者の尊厳を守り、笑顔がこぼれるケアの実現に向けて」(接遇・マナー研修)	57名
12/20(金)	「私たちが安心して働ける職場づくりのために」(メンタルヘルス研修)	47名
2/21(金)	<p><u>桜堤ケアハウス全体研修会</u></p> <p><u>第1部：福祉の仕事の基本</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○法令遵守 →(「法令遵守(コンプライアンス)と法令根拠</li> <li>○倫理規定 →(倫理と尊厳)</li> <li>○個人情報保護 →(個人情報保護とプライバシー保護の違い 介護現場におけるプライバシー保護等)</li> <li>○身体的拘束等の適正化→(検討委員会の設置、指針、具体的な事例)</li> <li>○おさえておきたいメールの書き方(基本編)</li> </ul> <p><u>第2部：「実際の大規模災害時の防災対策について」</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○「武蔵野市総合防災訓練から見てきたこと」についての概要説明 …・大地震・水害・土砂災害等非常災害時の対応策、 ・福祉避難所の開設とその現状等</li> <li>○セクションごとのグループワーク</li> </ul>	26名

## 令和元年度 ゆとりえ (特別養護老人ホーム・ショートステイ) 事業報告

令和元年度は特別養護老人ホーム(以下、特養ホームという)の退所者が3名と少なく(30年度8名)、利用率は前年度の90.3%から97.7%へと回復。ショートステイを含めた全体の利用率も前年度の93.4%から98.2%と上がっている。また、当日の依頼を含む緊急ショートステイは3件の受け入れとなっている(30年度は13件)。特養ホームの要介護度状況を見ると、要介護5の割合が5割を超え、平均要介護度も30年度の4.37から4.42と毎年高くなっている。ショートステイの要介護状況では、要介護3の人が一番多く利用し、平均要介護度は3.15となっている。令和元年度末現在の入所希望待機者は300人。待機者は昨年度268人程度と近年減少していたが、再び増加している。

職員体制も欠員状態により、入居者と向き合い余暇を楽しんでいただく時間が取れず、また、会議や職員同士の意見交換の場を超過勤務に設定しなければ行えない状態が続いていた。これらを少しでも解決する方法として昨年度より取り組み始めた8時間夜勤への移行については、8月に1か月間の試行期間を経て、11月より本格実施となった。日中の職員体制が手厚くなり、13時半～14時のコアタイムと呼ぶ時間に会議や意見交換、入居者と向き合う時間を確保することができるようになっている。手薄になる時間帯などの課題もあり、試行錯誤を繰り返している所である。

### 1. サービス提供形態と利用実績

サービス種類：特別養護老人ホーム・ショートステイ		総利用者数	利用率
特養ホーム定員	30名(個室10室・2人部屋2室・4人部屋4室)	10,733人	97.7%
ショートステイ定員	2名(個室2部屋+空ベッド)	776人	106.0%
合計	32名	11,509人	98.2%

### 2. 特養ホーム入居者の状況について

#### (1) 入退所状況(令和元年度実績) (人)

	退所(内、看取り)	入所	令和元年度末
男性	0(0)	0	5
女性	3(2)	2	24
合計	3(2)	2	29

\*令和2年4月1日女性入所

#### (2) 年齢構成等

##### <平均年齢>

	平均年齢
男性	89.6歳
女性	88.7歳
平均年齢	88.9歳

##### <年齢構成>

(令和2年3月31日現在・人)

	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代
男性	0	0	1	4	0
女性	1	3	7	12	1
合計	1	3	8	16	1

#### (3) 要介護度状況(令和元年度実績)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
特養ホーム延べ人数			0	0	1135	3260	6338	4.42
(割合)	0%	0%	0%	0%	10.5%	30.3%	59.2%	
【※】30年度(割合)	0%	0%	0%	2.2%	9.6%	36.5%	51.7%	
ショートステイ延べ人数	0	0	26	59	393	207	91	3.15

#### (4) 利用者負担段階(居住費・食費の低所得者負担軽減区分)とサービス費用の負担割合(令和2年3月31日現在)

利用者負担段階	人数	負担割合	備考
第1段階から3段階	16人	全員が1割等負担	補足給付(特定入所者介護サービス費等)の対象
第4段階	13人	1割負担=11人・2割負担=2人	

#### (5) 事故・苦情件数

事故：65件(内、武蔵野市への報告0件)、苦情0件。

3. 特養ホーム利用者の健康管理等 [医療・看護的ケア] (令和元年度実績)

退所者内訳	退所者 3 人。1 名は療養病床へ。2 名は施設内で看取り。
入院件数及び人数	7 件 (6 人)。腎盂炎、腸閉そく、肺炎、急性胆嚢炎、嘔気、脱水。
受診状況 (処方等受けている方)	定期受診者 26 人。
外部医療機関受診状況	通院 201 回 (実人数 15 人)。往診 47 回 (歯科 17 人、皮膚科 1 人)。
救急車搬送	1 件
看護職員緊急対応	夜間帯等電話指示 9 件 (オンコール対応)。夜間帯等臨時出勤 0 件。
インフルエンザ予防接種	29 人 (29 人在籍時)

①医療的なケアを必要としている人数

○経管栄養 (胃瘻) …… 2 人      ○吸引 (吸痰) …… 必要時吸引 6 人

②武蔵野市歯科医師会の事業

毎月 1 回、協力歯科医制度で歯科医師と歯科衛生士による口腔内の診察と口腔ケアの助言・指導を受けている。

4. 介護・生活面の状況

(1) 排泄介助

個別の排泄アセスメントを定期的に行い、トイレへ誘導し洋式トイレでの座位をとっての排泄を原則として取り組んでいる。本人から希望を伝えにくい人については、排泄につながりやすい時間帯にトイレに誘導している。昼夜共におむつ使用の重度要介護者についても、排便につながる時間帯にトイレを使用しての対応を行っている。昼夜トイレ介助の方が 10 名から 4 名へと大きく減っている。

R2. 3. 31 現在

自立者	1 人	昼夜トイレ介助	4 人
昼夜オムツ交換 (排便時トイレ介助)	8 人	日中トイレ介助・夜間オムツ交換	16 人

(2) 食事介助と栄養ケアマネジメント

自己摂取できる新入居者が続き、自立者が昨年の 5 名から 7 名へと増えている。誤嚥の可能性が高い人は多いため、管理栄養士、言語聴覚士の助言を受けて、食事形状、一口の摂取量、食器・食具等の使用方法、食事時間などについて検討を重ねて、安全でおいしく食べる環境を整えている。さらに、楽しめる食の提供を目的に、選択食 (月に 1 回) やイベント食も企画した。

【食事摂取の状況】

R2. 3. 31 現在

自立者	7 人	見守り・声掛け・一部介助	10 人
経管栄養 (胃ろう)	2 人	全介助	10 人

【嚥下状態に応じた食事形態】

普通食	4 人		
一口大	9 人	ペースト・一部ペースト	14 人

【体調に応じた食事提供】

高栄養ドリンク	2 人	トロミ剤使用	17 人
高栄養デザート	7 人		

(3) 入浴介助

ほとんどの人が洗身、移動面での援助が必要な人である。高齢で肌が弱く乾燥傾向の方が多いため、清潔を保ち皮膚トラブルを防ぐ対応にも取り組んでいる。

R2. 3. 31 現在

個別浴槽 (自立・一部介助等)	5 人	個別浴槽 (電動リフト使用)	11 人
		機械浴槽	13 人

(4) 機能訓練等の実施状況

理学療法	土曜日
------	-----

## 5. 主な行事、活動報告

行事・活動名	期 日	内 容
ハンカチの木バザー	4/21	ボランティア主催によるバザー
盆法要の集い	8/11	1年間に亡くなられた方を偲ぶ 看取り振り返り
吉祥寺礼祭(饗宴)	9/14	井の頭通り商店会の皆さんが御輿とともに来館
敬老会	9/15	家族とともに演奏を聴きながら長寿を祝う
新年会	1/12	家族とともに武蔵野囃子を楽しみ新年を祝う
選択食	9回	3種の献立から選んでいただく食事の提供(イベント食含む)
工作活動	16回	ボランティア指導による工作と合唱
お茶会	20回	ボランティアの振る舞いにより和菓子と抹茶を楽しむ
近隣学校との交流	随時	第三小、第三中、本宿小、立教女学院など
近隣保育園との交流	3回	松庵保育園児との交流
家族懇談会	5・9・1月	日常生活の報告、制度改正等説明、グループワーク

## 6. ゆとりえ特養ホームへの入所希望待機者の状況 (R2. 3. 31 現在)

### (1) ゆとりえ特養を希望する待機者の要介護度状況

待機者総数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	平均要介護度
300人	0	1	5	28	95	91	76	3.63
割合(%)	0	0.3	1.6	9.3	31.6	30.3	26.9	
平成31年4月1日の割合	0	0.3	1.8	8.2	32.8	28.6	28.6	【参考】
平成31年 都全体割合	—	—	3.9	7.5	32.9	32.4	23.3	【参考】

### (2) その他

○27年度の制度改正以降は、ゆとりえ特養ホームの待機者数が290人程度を推移し、30年度は268名と減少したが、今年度は増加している。相談には病院やグループホームから早期の退院退所を迫られるケースも目立つ。家族の介護負担が非常に大きい方も多い。

## 7. その他の実績

### ①利用者調査を実施 (評価団体：特定非営利活動法人 特養ホームを良くする市民の会)

令和元年11月15日(金)、16日(土)、19日(火)に利用者6名にヒヤリングと家族アンケート(21名回収)を行った。調査結果に基づいて、提供しているサービス内容等を振り返り改善に取り組むきっかけとなった。

### ②介護職員の人材確保困難

今年度は常勤介護職員新卒採用2名、中途採用が2名だったが、そのうち新卒1名を含む3名が退職。その後は中途採用を見送った。そのため、1年を通して1名欠員が続き、新年からは2名欠員の状態であった。

### ③地域住民の自主活動を支えるためのゆとりえスペースの開放

地域住民のサロン活動、趣味・健康づくりのサークル活動等を支援するために、ゆとりえスペースの地域開放を本格的に進めてきた。土曜日・日曜日にデイルームや相談室を使用してのコーラス活動、手芸・パッチワーク活動等が定例化している。

また、秋に行う南町福祉の会主催の「知りあい ふれあい 支え合う 福祉の輪」や、奇数月第4土曜日開催の認知症カフェ「カフェ君の名は」も定着。今年度は吉祥寺東町を中心に医療を中心とした相談の場「暮らしの保健室 mini」を偶数月に開催(カウンセラー依頼費はデイサービス家族介護支援事業費を活用)。いずれも地域住民とゆとりえ専門職が協働して地域福祉を進める場づくりが行われている。

### ④大規模改修

開設24年が経ち、経年劣化による建物の修繕や設備の更新が必要となっている。東京都の補助金を申請。令和2年度着工に向けて準備を進めている。



## 令和元年度 ゆとりえデイサービスセンター 事業報告

昨年度に続き利用登録者、総利用者数ともに減少している。退職した非常勤介護職員の補充ができないままでの職員体制で取り組んだ1年であり、30年度改定により介護報酬体系が1時間単位となったことや、認知症で多動な方への対応もあり、利用者を増やすことが難しい状態だった。さらに年度末は新型コロナウイルス感染を怖れて利用を自粛される方もおり、総利用者は30年度と比較して555人(約6.8%)減少している。

土曜日のデイサービスは、昨年度より少人数の認知症高齢者による地域交流活動を中心としたものに取り組んできたが、利用者の重度化や新たな利用者の確保困難、職員の効果的な配置の必要性などから今年度末で廃止とする。

非常勤職員は12月と3月に3～4日勤務の職員を採用。研修により育成に取り組んでいる。

利用者の特徴として、特に運動能力の低下していない認知症の方へのケアの度合いが高まっている。帰宅願望など外に出たがる方に安心して過ごしていただく工夫を全職員が共有しながら支援を行っている。

武蔵野市の受託事業である配食サービスの利用者減少は止まらず、30年度実績と比較すると約11%の減少となった。食事の提供と共に安否確認を主な目的としているため、利用できる要件が限られている。また、毎週金曜日の会食型サービス(ゆとりえキッチン)は、8月に金曜日の15:30よりいきいきサロンを目指したカラオケの集いを開始したことによりゆとりえキッチンの利用者も増加。1日平均7.7人(昨年度5.2人)となっている。残念ながら新型コロナウイルス感染予防のためカラオケは2月末よりキッチンは3月末で休止となっている。

### 1. デイサービス提供形態と利用実績

サービス種類：通所介護・介護予防通所介護・通所型サービス<通常規模型事業所>		総利用者数	利用率
サービス提供	月～金曜日 ◆9:00～16:30 40人	7,454人	73.6%
曜日・時間・定員	土曜日 ◆9:00～16:30 10人	181人	34.8%
		計 7,635人	71.4%

### 2. デイサービス利用者状況

#### (1) 要介護認定等結果(令和元年度実績)

要介護者	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計(人)	平均要介護度
延べ人数	1169	3225	1636	1040	167	7436	2.52
(割合)	15.7%	43.3%	22.0%	13.9%	4.5%		
【参】30年度(割合)	19.3%	40.8%	21.9%	11.5%	6.4%		

要支援者	要支援1	要支援2	新事業対象者	合計(人)
延べ人数	0	0	199	199
(割合)	0%	0%	100%	
【参】30年度(割合)	0%	0%	100%	

#### (2) 年齢構成

(令和2年3月31日現在)

	令和元年度末	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代	100歳代	合計
男性	88.0	0	1	5	6	0	12
女性	89.0	1	2	21	39	2	65
平均年齢	89.0	1	3	26	45	2	77

### 3. 食事(配食)サービス利用実績(令和元年度実績)

配食登録者(月平均)：約20人	1日平均配食数：10.6食	年度間総配食数：3,229食(お節含む)
-----------------	---------------	----------------------

○食事内容への配慮として、粥への変更・嗜好に応じた代替え食への対応を行っている。

○利用者減少傾向は現在も続き、総配食数では、27年度：7,230食、28年度：4,231食、29年度：3,723食、30年度：3,622食、R元年度：3,229食になっている。安否確認の目的があり、要件が限られるため新規の配食利用者が減っていることが原因である。

#### 4. その他の実績

##### (1) 会食型サービス（ゆとりえキッチン）実施状況

営業日数	48日	延べ来店者数	368人	1日平均来店者	7.7人
------	-----	--------	------	---------	------

##### (2) 事故・苦情件数

事故：9件（武蔵野市への報告は1件） 苦情：0件

#### 5. サービス提供内容等

曜日	月	火	水	木	金	土
午前	○健康チェック（血圧、脈拍、顔色など） ○うた、レクリエーション ○入浴<月～金曜日>		○朝のつどい ○排泄ケア	○口腔体操 ○地域開放型コンサート	○体操（スウェーデン体操、音楽体操）	
昼食	○食事介助		○服薬	○口腔ケア	○排泄ケア	
午後	手芸、麻雀 アートクラブ カラオケ 旅の友 移動美容室 個別対応 個別機能訓練	口琴クラブ 絵手紙 カラオケ 書道 散髪 個別対応	みどりの会 カラオケ 個別対応	書道、麻雀 旅の友 カラオケ 麻雀 個別対応	コーラス 手芸、麻雀 染め物 唱歌の会 個別対応 個別機能訓練	地域交流活動 （使用済み切 手整理、ベル マーク、おも ちゃ作りと保 育園訪問な ど）

○グループ活動を好まない人へは個別の対応を行った。休息や入浴後の静養等でベッド（6台）を活用。

#### 6. デイサービス利用者の健康管理等

##### \*医療処置延べ人数

経管栄養（胃瘻）対応	0人	バルーンカテーテル留置	0人
経管栄養（鼻腔）対応	0人	透析	0人
気管切開	0人	インシュリン注射	0人
吸引	0人	尿ろう	0人
人工肛門	0人	在宅酸素	0人
MRSA	0人	自己導尿	0人
歯科健診	2回実施（武蔵野市歯科医師会からの歯科医師と歯科衛生士の協力のもと実施）		
口腔ケア教室	2回実施（武蔵野市歯科医師会からの歯科医師と歯科衛生士の協力のもと実施）		
救急搬送	0回（転倒、転倒・発熱・血圧低下）		

#### 7. 主な行事、活動報告

行事・活動名	期 日	内 容
花見ドライブ	4月上旬	市内の桜の名所を小グループでまわる
長寿を祝う会	9/11～13	楽器演奏、合唱を聴き、祝膳で楽しむ
新年会	1/14～17	祝膳を楽しむ
コンサート	36回	・うたクラブ＝22回 ・市民合唱団＝1回 ・サロンコンサート＝11回 ・他2回
近隣学校との交流	随時	本宿小、第三中、松庵保育園など
「食」に関する活動	随時	料理の会（2回）、イベント食（10回）
親子広場	10回	乳幼児親子と高齢者との交流プログラム（第2金曜日に開催）
その他		・散髪（10回） ・移動美容室（5回）

#### 8. 食事サービス関連の状況

下記の利用者も含めて35名の人に対して、食事形態やごはん量の調整、禁食対応、食器の工夫や自助具の用意を行い、快適な食事を提供できるように環境を整えている。

粥/普通	3	ご飯/一口大	4	粥/ソフト or 極刻み	3	R2.3.31現在（人） （主食/副食）
粥/一口大	2	ペースト	2	肉のみミンチ or ソフト	3	

## 9. その他の実績

### (1) 家族介護支援プログラム(武蔵野市受託事業)の実施状況

#### ①くつろぎサロンコンサート

毎月第2火曜日にデイサービスの利用者向けコンサートを利用者家族や他の介護者も参加していただく。

実施回数	11回	参加延べ人数	73人
------	-----	--------	-----

#### ②家族介護者向け健康講座(知りあい ふれあい 支え合う 福祉の輪にて)

11/17(日)	ゆとりえ	「みんなが知りたい薬の話」	28人
11/17(日)	ゆとりえ	「特養ホーム等の見学説明会」	10人

#### ③暮らしの保健室 mini

偶数月日曜日午後に医療を中心とした相談の場を地域住民と共に行った(10月は台風のため中止)。

8/4(日)	吉祥寺東コミセン	参加者19名	相談者7名(うち個別4名)
12/15(日)	吉祥寺東コミセン	12名	2名( 2名)
2/2(日)	本宿コミセン	8名	2名( 1名)

### (2) 福祉サービス第三者評価を受審(評価団体:特定非営利活動法人 特養ホームを良くする市民の会) 今年度の受審はなし。

## 令和元年度 ボランティア活動実績(特養・デイ・共通)

昨年度の延べ3,109人から2,711人へと398人減少している。5年間で約1,400人減少。1月末にシニア支え合いポイントの施設登録と共にゆとりえボランティアポイントも開始。新たなボランティア活動につなげたいが、3/30よりすべてのボランティアを休止しているため、地域への広報が行えていない。

### (1) 活動延べ人数

①特別養護老人ホームでの活動		
洗濯物たたみ	388人	
整容	192人	
食事下膳	91人	
余暇活動、他(お茶会、クラブ活動、行事参加、傾聴、歌、他)	87人	小計 758人
②デイサービスセンターでの活動		
フロア活動(配下膳、話し相手等)	446人	
趣味活動等(プログラム活動講師・助手、補助等)	876人	
コンサート、小学生、保育園児、他	165人	小計 1,487人
③その他の部門での活動		
植栽、庭水まき	120人	
配食配達	293人	
事務連絡会、バザー他	53人	小計 466人
		合計 2,711人

### (2) ボランティア懇談会等の実施

4/15(日)	ボランティア感謝の集い	37人
	配食ボランティア(試食会)	中止

### (3) ボランティアポイント

シニア支え合いポイント	1/27~3/27	実人数10名	66ポイント
ゆとりえボランティアポイント			211ポイント

## 令和元年度 実習生受け入れ実績(特養・デイ・支援での延べ人数)

武蔵野第三中職場体験学習	2人	杏林大学・看護学生実習	18人
社会福祉土現場実習	24人	教員介護等体験実習	80人
その他	0人	合計	122人

## 令和元年度 ゆとりえ在宅介護・地域包括支援センターの事業報告

武蔵野市の東部地域(吉祥寺南町・吉祥寺東町・御殿山1丁目)の高齢者総合相談窓口として、各種介護支援サービスの情報提供・総合調整、権利擁護、地域支援等の高齢者福祉サービスの事業を24時間365日行った。

住民主体のさまざまな支え合いづくりや地域づくりへの取り組みに、生活支援コーディネーターはじめ職員が一丸となって取り組む土壌ができてきている。

また、南町福祉の会とゆとりえ(全セクション参画)とが共同して認知症カフェを定期開催し、地域における認知症の人とその家族等が集う機会となっているが、今年度は新たに東部福祉の会、吉祥寺東コミュニティ協議会、本宿コミュニティ協議会と共に医療を中心とした気軽な相談の場として「暮らしの保健室 mini」を開催している。

個別相談支援の特徴としては、家族介護力の不足により生活の限界点を迎える独居高齢者への対応に困難性がある一方で、地域住民の支えによって在宅生活の継続が可能となっている方も見られている。

### 1. 在宅介護支援センター(受託事業)の報告

#### (1) 相談実績

##### 【相談形態内訳】

形態	件数
電話	983件
来所	290件
訪問	2,001件
支援会議	60件
その他	31件
合計	3,365件

##### 【訪問地区内訳】

地区	延件数
東町	1,036件
南町	791件
御殿山1丁目	174件
合計	2,001件

##### 【日祭日・夜間相談内訳】

地域	延件数
ゆとりえ	3,073件
ケアハウス	81件
不明	11件
その他地区	4件
市外	1件
合計	3,170件

##### 【援助内容別の相談割合…複数相談あり】

内容	%
介護保険に関する相談	17.8
保健・医療に関する相談	14.0
認知症・精神に関する相談	11.9
ホームヘルプサービス	10.8
デイサービス	8.3
福祉用具	7.9
住宅改善・住まい	4.2
リハビリテーション	4.2
高齢者福祉施設(特養、老健)他	2.9

内容	%
食事サービス	2.7
ショートステイ	2.3
家庭的事項	2.2
認知症見守りヘルパー	1.2
権利擁護・虐待等	1.2
年金等経済的事項	1.1
介護保険に関する苦情	0.5
その他	6.8
(合計)	100.0

### 2. 地域包括支援センター事業(受託事業)の報告

#### (1) 虐待防止(虐待対応件数)：10件

\*重複あり

身体的：7件	経済的：0件	精神的：3件	性的：0件	介護放棄：0件
--------	--------	--------	-------	---------

#### (2) 権利擁護等対応件数：97件

\*重複あり

成年後見制度関連：10件	消費者被害：0件	困難事例：87件
--------------	----------	----------

#### (3) 地域連携等件数：182件

地域連携会議：32件	介護予防啓発：13件	他機関との連携：137件
------------	------------	--------------

#### (4) ケアマネ支援件数：131件

個別の相談：48件	同行訪問：40件	担当者会議へ出席：43件
-----------	----------	--------------

### 3. 居宅介護支援事業所の実績

①年間認定調査件数：544件／新規同行調査：前期95件 後期69件

②ケアプラン作成総数：124件

介護給付ケアプラン作成数： 115件	新予防給付ケアプラン作成数（総合事業含む）：86件
--------------------	---------------------------

#### 4. その他

苦情件数： 0件	事故件数： 0件
----------	----------

#### 5. 通常活動の実績

- ①高齢者の孤立や異変を早期に発見するための情報収集と実態把握、災害時に備えた地域連携・協力体制の構築のために、地域福祉の会等の地域会議に参加し、啓発活動や情報交換を行った。
- ②緊急・短期の福祉用具の貸し出しを行った。(年間67件)
- ③夜間・日祝日を含めた24時間体制の相談体制を確保した。(夜間・日祝日の相談件数は年間3170件)
- ④個別とエリアの地域ケア会議を通して、地域住民と一緒に地域課題について考えた(エリア会議は中止)。

##### ◇個別地域ケア会議

実施日	実施場所	内容	参加人数
10/3	ゆとりえ	アルコール依存症へのアプローチ	13人
2/13	ゆとりえ	一部の方に負担がかりすぎない支援	10人

##### ◇エリア別地域ケア会議

実施日	実施場所	内容	参加人数
3/6	東コミセン	つながりについて考えよう。地域の中で孤立を防ぐためにできること	中止

- ⑥家族支援事業として下記のように「ほほえみサロン(介護者、介護経験者の集いの場)」を実施。

コミセン等を活用することで、地域住民が参加しやすい環境と、少人数で介護者同士がじっくり話せるようにした。また、認知症カフェを定期的を開催することができ、集いの場としての機能は果たしている。

5回開催し、延べ148人参加。

実施日	実施場所	講座内容	参加人数
6/20	ゆとりえ	民間配食試食会とゆとりえ管理栄養士による講座	10人
8/20	本町コミセン	有料老人ホームの選び方	10人
10/20	ゆとりえ	落語で学ぶ消費者被害	4人
12/20	東コミセン	口腔ケア講座	4人
2/20	南町コミセン	フレイル予防転ばない体づくり	3人

- ⑦東部第一地区別ケース検討会の実施

事例検討会を年5回実施。民間事業所を含む主任介護支援専門員がスーパーバイザーの役割を担った。講演会は、薬剤師、消費生活トラブルを学んだ。

4月	年間計画、住改福祉用具相談センター	10月	事例検討会(Mさんの頑張りを引き出す)
5月	認知症初期集中支援事業について	11月	講演会(消費生活トラブル)
6月	事例検討会(不安でサービスを受けられない)	12月	事例検討会(意向が違う家族との関わり)
7月	講演会(薬剤師とケアマネの連携)	1月	事例検討会(認知症高齢者夫婦の支援)
8月	休会	2月	中止
9月	事例検討会(認知症高齢者夫婦の支援)	3月	中止

- ⑧認知症サポーター養成講座の実施

実施日	実施場所	参加団体	参加人数
5/13	商工会館	一般市民	25人
6/13	市役所	やまびこの会	23名
			合計 48人

- ⑨認知症相談事業の実績 12人

5/8：3人	8/7：2人	11/6：3人	2/5：4人
--------	--------	---------	--------

- ⑩民生・児童委員との定例会の実施

実施日	実施場所	協議内容	参加者数
7/9	ゆとりえデイルーム	地域の気になる高齢者高齢者事例紹介とグループワーク	23人
2/25	ゆとりえデイルーム	つながりサポート、成年後見制度	23人

⑪その他の講座開催（エンディング講座）

実施日	実施場所	対象者	参加者数
9/21	御殿山コミセン	井の頭お茶の水会	23人
11/17	ゆとりえ	福祉の輪	18人
11/22	本宿コミセン	若葉会	18人
1/15	本宿コミセン	本田北クラブ	12人

6. 生活支援コーディネーターによる「いきいきサロン事業」等の住民主体の動き

ゆとりえ相談室にて「カラオケルーム De 一緒に歌いませんか」を毎週金曜日に開催。毎週楽しみに参加される方も増え、これから主体となって運営してくれる方を決めていくところだったが、新型コロナウイルス感染防止のため中止となっている。

---

**高齢者支援部門及びゆとりえでの職員研修・研究会等の実績**

1. 高齢者支援部門・職員全体研修会

開催日	研修内容	参加者数
8/27(火)	「利用者の尊厳を守り、笑顔がこぼれるケアの実現に向けて」 講師：徳森 敬子 氏 (YWCA 講師)	57人
12/20(金)	「私たちが安心して働ける職場づくりのために」 講師：江口 毅 氏 (メンタルクリエイト)	49人